ミニクローラ

取扱説明書

MRT-10D



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。
取扱いの注意	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
参考	作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

本文の概要

1章 安全な作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また、各安全銘板の内容と貼付位置を示しています。
2章 保証とサービスについて	●保証書とアフターサービスについて説明しています。
3章 各部のなまえ	●本文中、よく使う部品の名称を紹介しています。
4章 各操作部のはたらき	●本文中、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
5章 JAC仕様について	●JAC仕様の各部のなまえとはたらき、操作スイッチの使いかたについて説明しています。
6章 運転前・作業前点検のしかた	●本機の点検箇所と、作業に適した服装などを説明しています。
7章 運転・移動のしかた	●エンジンの始動から移動走行のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明しています。
8章 作業のしかた	●運転のしかたを理解したうえで、ほ場での耕うん方法、および各部の調節のしかたを説明しています。また、いろいろな機能の使いかたも説明しています。
9章 ロータリーについて	●耕うん爪の取り付けかたと、ロータリーの脱着のしかたを説明しています。
10章 作業後の手入れと格納について	●機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
11章 点検・整備のしかた	●長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
12章 不調診断のしかた	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
13章 その他	●仕様、および標準付属品について説明しています。 ●用語を説明しています。 ●電気回路図を載せています。

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・取扱いの注意・参考）……2
本製品の使用目的について……2

本文の概要　3

1章 安全な作業をするために必ずお守りください　8

1．運転する人について……8
2．運転前・作業前点検をするとき……9
3．運転・移動をするとき……12
4．機械から降りて操作するとき……15
5．作業機について……16
6．運搬するとき……18
7．ほ場への出入り・作業をするとき……20
8．作業後の手入れ・格納をするとき……21
9．点検・整備・不調診断をするとき……22
10．安全銘板の貼り付け位置……24

2章 保証とサービスについて　27

保証書は大切に保管してください……27
アフターサービスをお受けになるときは……27

3章 各部のなまえ　28

4章 各操作部のはたらき 30

エンジンコントロール関係……30
走行関係……32
作業機操作関係……34

5章 JAC仕様について 36

1.各部のなまえとはたらき……36
2.操作スイッチの使いかた……37
3.操作スイッチと作業機の動き……37

6章 運転前・作業前点検のしかた 38

1.作業者の体調・服装について……38
2.本機の点検のしかた……39

7章 運転・移動のしかた 40

1.本機への乗り降りのしかた……40
2.シート位置の調節のしかた……40
3.エンジンの始動のしかた……41
4.暖機運転のしかた……43
5.エンジンの停止のしかた……44
6.作業機の昇降のしかた……44
7.発進のしかた……45
8.変速のしかた……46
9.旋回のしかた……47
10.停車のしかた……48
11.駐車のしかた……48
12.移動走行のしかた……49
13.夜間走行のしかた……51
14.歩行操作での移動のしかた……51
15.トラックでの運搬のしかた……53

8章 作業のしかた 55

1.補助フレームの折りたたみかた……55
2.耕うん変速ケースの振り替えかた……55
3.ほ場への出入りのしかた……57
4.作業に適した速度の選びかた……58
5.ロータリー耕うん作業のしかた……58
6.ほ場での旋回のしかた……63
7.作業機の取り扱いに関する注意事項……63

9章 ロータリーについて 64

1.耕うん爪の取り付けかた……64
2.ロータリーの取り付け・取り外しかた……65

10章 作業後の手入れと格納について 70

1.手入れのしかた……70
2.格納のしかた……70
3.長期間使用しない場合のお手入れ……71

11章 点検・整備のしかた 72

1.定期点検・整備の時期について……72
2.定期点検一覧表……73
3.給油・給脂一覧表……73
4.コラムカバーの取り付け・取り外しかた……74
5.ボンネットの開閉、および取り付け・取り外しかた……74
6.サイドカバーの取り付け・取り外しかた……75
7.各部の注油・給脂のしかた……76
8.燃料の点検と補給のしかた……77
9.各部オイルの点検・補給・交換のしかた……78
10.燃料コシ器エレメントの掃除・交換のしかた……80
11.HSTフィルターの交換のしかた……81
12.サクションストレーナの洗浄のしかた……81
13.エアクリーナーの掃除のしかた……82
14.ブレーキペダルの点検・調節のしかた……83
15.ベルトの点検・調節のしかた……83
16.オートワイヤーの調節・確認のしかた……85
17.爪の交換時期について……86
18.ロータリーのボルトの締め付け……86
19.バッテリの点検・整備のしかた……87

20. ヒューズの点検・交換のしかた……89
21. パイプ類の点検について……90
22. 電気配線の点検について……90
23. クローラの調節のしかた……91
24. 排気ガスの色について……91

12章 不調診断のしかた 92

1. メインスイッチを「始動」位置にしても、スタータが回らない。……92
2. メインスイッチを「始動」位置にすると、スタータは回るが、エンジンが始動しない。……92
3. エンジンが不規則に回転する。……93
4. エンジンが過熱する。(オーバーヒート)……93
5. エンジンの力がでない。……93
6. ブレーキの効きが悪い。……93
7. ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く。……94
8. 前後進時ベルトがすべる。……94
9. 作業機上下レバーを「上げ」位置にしても、作業機が上昇しない。……94
10. 作業機上下レバーを「下げ」位置にしても、作業機が下降しない。……95
11. ライトが点灯しない。……95
12. JACが作動しない。(JAC仕様)……96
13. ロータリーが水平にならない。(JAC仕様)……96

13章 その他 97

1. 仕様……97
2. 標準付属品……98
3. 用語集……99
4. 配線図……100

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1. 運転する人について

⚠警告

■ こんなときは、運転しない!

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



2010902

■ 作業に適した服装をする

- 操作レバーや機械部品に引っかからないだぶつきのない服装。
- ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などをつける。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業をしない。

【守らないと】

正常な操作ができなかったり、機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、ケガをするおそれがあります。



2010903

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

2. 運転前・作業前点検をするとき

⚠危険



■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災を起こすおそれがあります。

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリ点検時は火気厳禁



バッテリの点検時、液槽キャップを開けるときは火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火、爆発してヤケドなどを引き起こすおそれがあります。

■ バッテリ液は体につけないように



バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり服が破れるおそれがあります。

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると、燃料もれを起こしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。

■ 燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■ 排気ガスには十分に注意する

閉め切った屋内などでは、エンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行う

点検整備は交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で安定した場所で行ってください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ マフラー・エンジンのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料など付着していないか作業前および作業中に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。

■ 電気部品・コードは必ず点検する

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因になることがあります。

■ ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリ液を「下限（LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



A2037549

⚠注意

■ 作業前・後は必ず機械の点検・整備を行う

機械を使う前と後には、必ず点検・整備をしてください。特に、ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。作動不良の場合は、確実に作動するよう調整してください。

【守らないと】

整備不良による事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。ショートして、ヤケドや火災事故の原因になります。

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

■ バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順で

バッテリ端子を取り付けるときは⊕側をさきに取り付け、取り外すときは⊖側から取り外してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故の原因になります。



1077336

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ クローラの摩耗を点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズがついていないか確認してください。

【守らないと】

横滑りや、転倒事故の原因になります。

3. 運転・移動をするとき

⚠警告

■ 急な坂道を、重い作業機を装着して走行する場合は、フロントウエイトを装着する

移動走行やほ場への出入りのとき、急な坂道をロータリーなどの重量の大きい作業機を装着して走行する場合は、フロントウエイトを装着してください。

【守らないと】

転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。機械の破損、事故の原因になります。

■ 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくりと前後進レバーを操作し、「前進」または「後進」位置に確実に入れて発進してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ブレーキペダルを踏み込んで（または、手動用ブレーキレバーを操作して）停止したら、前後進レバーが必ず「N」(中立)位置にあることを確認する

【守らないと】

ブレーキペダル（手動用ブレーキレバー）を離したとき急に動き出すおそれがあります。

■ 運転者以外に人を乗せない

本機の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分スピードを落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故を起こすおそれがあります。

■ 移動時は路肩に注意

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

【注意しないと】

転落事故を引き起こすことがあります。

■ わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 坂道・アユミ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やアユミ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故を引き起こすおそれがあります。

■ 坂道やアユミ板の上では、だ性運転はしない

坂道やアユミ板の上での走行は十分注意して行ってください。
走行変速レバー、前後進レバーを「N」(中立)位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。

■ 溝・あぜを渡るときはアユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。
また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】
乗用耕うん機が動きだし、事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業機を取り外したときは、フロントウエイトを取り付けない

作業機を取り外したときは、フロントウエイトを取り外してください。

【守らないと】
急ブレーキをかけたとき、前方への転倒による事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 作業機の着脱を行うときは、バックアップ切替レバーを「切」にする

【守らないと】
本機を後進させたとき、ヒッチ部が上昇し、ケガをするおそれがあります。

■ 本機から離れるときは、作業機を最下げにする

【守らないと】
何らかの原因で作業機が急に下がったとき、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】
事故を引き起こすおそれがあります。

■ 使用していないPTO軸にはカバーつける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】
巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 前後進レバーを「前進」・「後進」位置に入れ始めるときはハンドル操作をしない

【守らないと】

走行変速レバーが変速位置に確実に入っていないと、本機が急に旋回し、事故を引き起こすおそれがあります。

4. 機械から降りて操作するとき

⚠危険

■ 歩行操作での移動は、必要最小限度にとどめる

機械から降りて、歩行操作での移動は、トラックへの積み・降ろし、あぜ越え、ほ場の出入りなど、乗車しての操作が困難な場所のみにとどめてください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ 歩行操作は最徐行速度で行う

走行変速「1」、アクセル「おそい」にして、最徐行速度で移動してください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

⚠警告

■ 後進しながら操作するときは、後方および足元に十分注意する

【守らないと】

障害物にぶつかったり、挟まれたりしてケガをするおそれがあります。また、障害物につまづき転倒して機械の下敷きになるおそれがありますので注意してください。

⚠警告

■ 片手は常にブレーキに添え、緊急時にはすばやく停止する

緊急時に、すばやくブレーキ操作ができるよう、片手は常にブレーキレバーに添えておいてください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ 手動用ブレーキレバーを操作して停止したら、前後進レバーが必ず「N」(中立)位置にあることを確認する

【守らないと】

手動用ブレーキレバーを離したとき急に動き出すおそれがあります。

5. 作業機について

⚠警告

■ 作業機の着脱は平坦な場所で行う

作業機の着脱は、平坦で安定した場所で行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。

■ 乗用耕うん機と作業機の周辺に人を近づけない

乗用耕うん機を移動して作業機を着脱するときは、乗用耕うん機の周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 乗用耕うん機に作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を必ず読む

乗用耕うん機に作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損を引き起こします。

⚠警告

■ 人や物をウエイト代りにしない

フロントウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のフロントウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにフロントウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

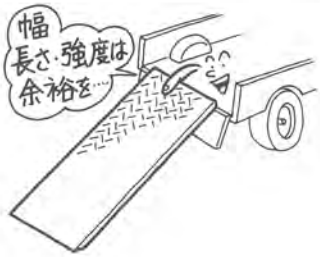
■ 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6. 運搬するとき



⚠警告

■ トラックへの積み込みをするときは、強度・長さ・幅の十分あるアユミ板を使用する

積み・降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、ギヤを「P」または「1速」・「R」にいれ、動かないようにサイドブレーキを掛け歯止めをしてください。使用するアユミ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

〈アユミ板の規準〉

- 長さ…車の荷台高さの3.5倍以上。
- 幅……履帯幅の1.2倍以上。
- 強度…1枚が600kgに十分耐えられるもの。
- 表面がすべらないように処理してある。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

■ 上るときは後進、降りるときは前進で行う

トラックに積み込むときは後進で、降りるときは前進、車速は最低速で行ってください。急な坂道の場合でも同様に行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■ アユミ板の上では、だ性運転はしない

アユミ板の上での走行は十分注意して行ってください。

走行変速レバー、前後進レバーを「N」位置にしての、だ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠警告

■ 積み・降ろし作業は、補助者を付けて行う

トラックに積み・降ろし作業をするときは、補助者を付けて安全を十分確認しながら行ってください。また補助者は、機械の直前·直後には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故などの原因になります。

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに載せて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、走行変速を「1」に入れて、強度の十分あるロープでトラックに乗用耕うん機を固定してください。

【守らないと】

荷台から乗用耕うん機が転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。

7. ほ場への出入り・作業をするとき

⚠警告

■ ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ 爪に巻き付いた草などを取るときは、エンジン停止し、油圧ロックレバーを「ロック」位置にする

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。

■ 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 走行変速レバー「3」速以上でのけん引作業禁止

けん引作業は、「1」～「2」速で行い、「3」速以上は使用しないでください。

【守らないと】

ほ場条件により、クラッチがすべり故障や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ あぜ越え、段差越えのときはアユミ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはアユミ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。このときアユミ板に、耕うん爪を引掛けないように注意してください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。

⚠注意

■ 夜間作業は禁止

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、思わぬ傷害事故を引き起こします。

8. 作業後の手入れ・格納をするとき

⚠危険

■ 機体カバーは機械が十分冷めてからかける

機械に機体カバーをかける場合は、マフラーやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。

9. 点検・整備・不調診断をするとき

⚠危険

■ 注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災を起こすおそれあります。

⚠警告

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、乗用耕うん機のクローラには車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ マフラー・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
特に燃料パイプや電気配線は2年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

⚠注意

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故を起こすおそれがあります。

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

■ バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順で

バッテリ端子を取り付けるときは⊕側をさきに取り付け、取り外すときは⊖側から取り外してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故の原因になります。



1077336

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具は常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

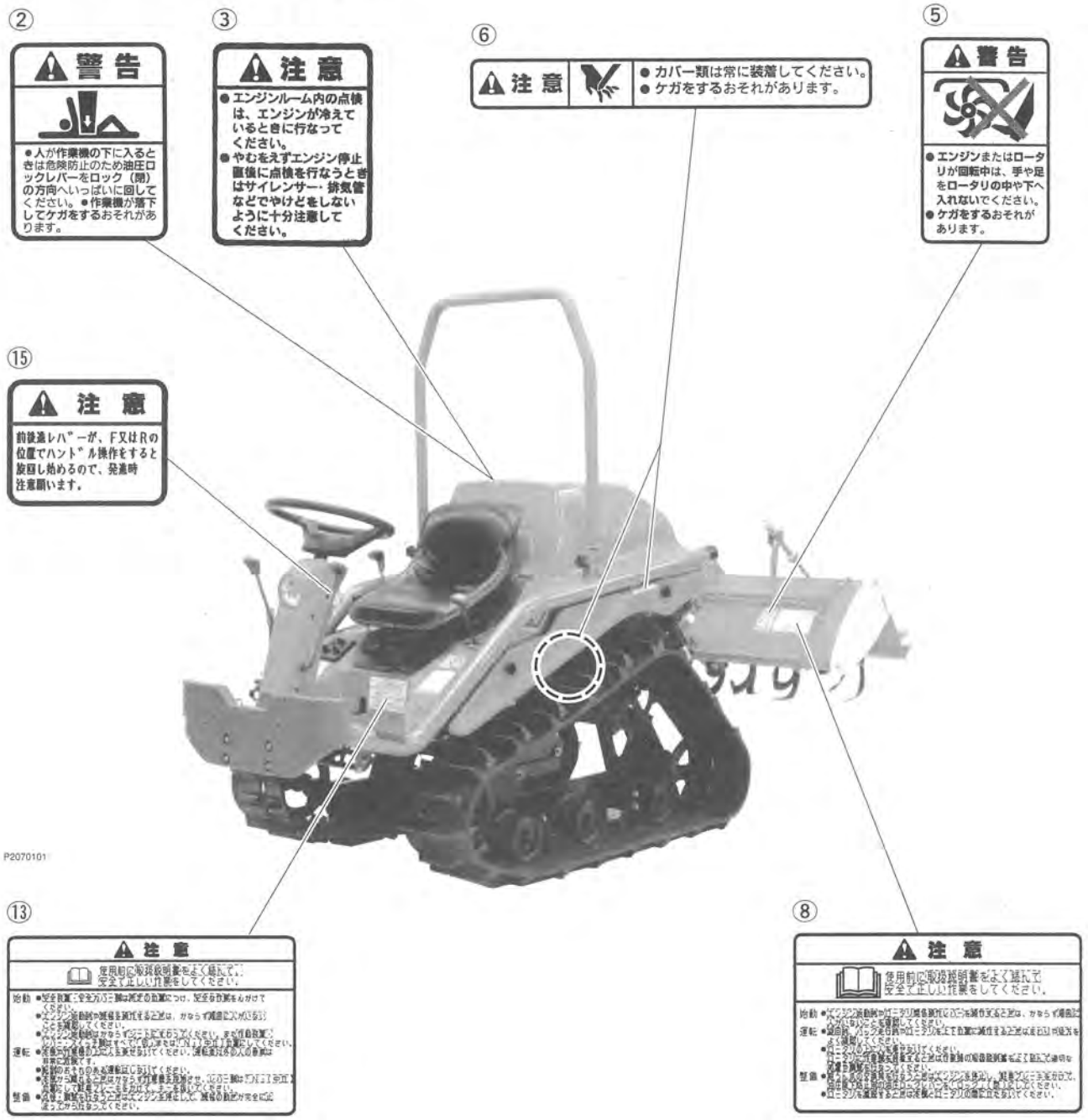
■ 機械の改造禁止

純正以外の部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。改造をしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

10. 安全銘板の貼り付け位置



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	91580000020	注意（移動）	⑨	91580000060	注意（回転軸）
②	91580000030	警告（油圧ロック）	⑩	94690070270	危険（火気厳禁B）
③	91580000040	ラベル（注意・やけど）	⑪	10020070140	警告（排ガス）
④	10020070191	注意（カバー）	⑫	10020070160	注意（エンジン停止）
⑤	10020070290	銘板（ロータリ）	⑬	91580000070	銘板（安全運転）
⑥	90760012730	注意（カバー）	⑭	91580000080	ラベル（警告・積込み）
⑦	90300029390	注意（マフラー）	⑮	91580000090	銘板（FR注意）
⑧	91580000050	銘板（注意）	⑯	91580000100	メイバンジョイント（JAC仕様のみ）

⑥

⚠注意 ● カバー類は常に装着してください。
● ケガをするおそれがあります。

※ボンネット内部のパイプフレームにも1枚貼り付けています。

⑦

⚠注意 **マフラー高温注意**
さわるとやけどをするおそれがあります。

①

⚠注意

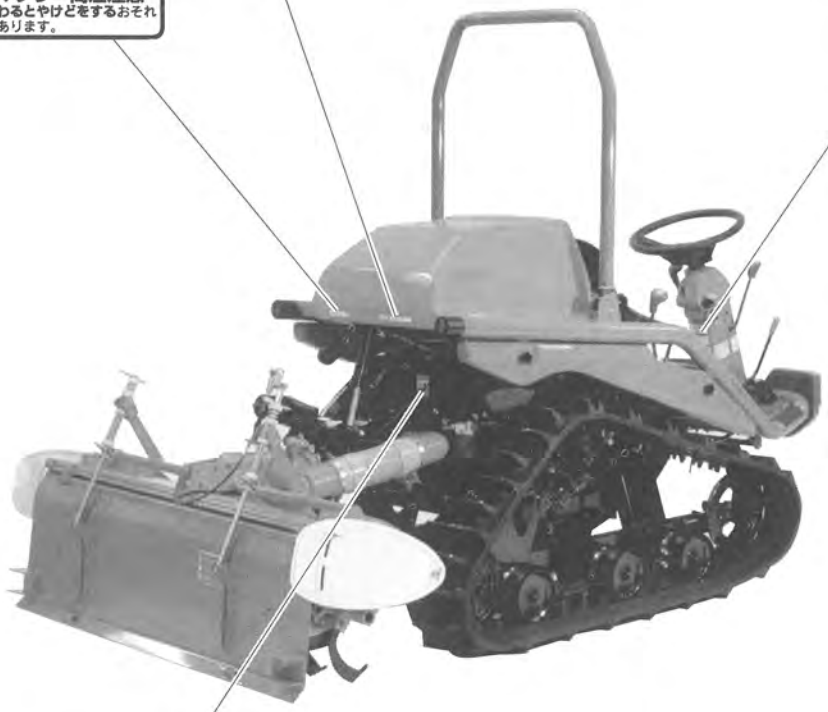
運搬、移動時の注意

移動走行

- 作業機を最上げにして、油圧ロックレバーを「油圧ロック（閉）」位置にしてください。
- 運転席右側の作業機上下レバーを「N」位置にしてください。
- できるだけ低速で走行し、急ハンドル、急ブレーキはぜったいにさけてください。

段降ろし・あぜ越え

- 前後進レバーを「N」位置にしてのだ性運転は、ぜったいにしないでください。機体の傾みで急に車を下がり危険です。
- 本機をまっすぐにして、上り坂は微速で、下り坂は前進で、速度は低速にしてゆっくりと行ってください。
- 凹凸の少ない所を選んで、アユミ板等を使用してください。



P2070102

⑯

⚠警告

回転軸にふれないでください。
ケガをするおそれがあります。



P1079173

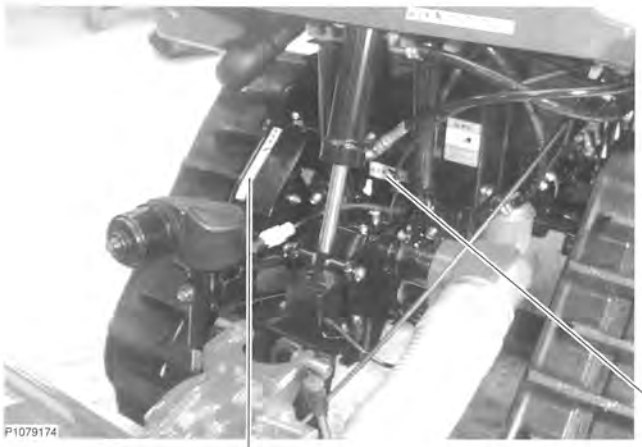
④

⚠注意

- **これはPTO軸の安全カバーです。**
- **作業機をはずしたときはかならず取りつけてください。**



※付属品箱内のPTOカバーに貼り付け。



⑥

⚠注意

● カバー類は常に装着してください。
● ケガをするおそれがあります。

⑨

⚠注意

● 回転軸にぜったいにさわらないでください。
● 使用しないときは、キャップを装着してください。

⑫

⚠注意

点検時エンジン停止

● 点検整備をするときは、エンジンを停止してください。● ケガをするおそれがあります。

⑪

⚠警告

排ガスに注意

室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。

⑩

⚠危険

火気厳禁

● 給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。● 給油中は、エンジンを停止してください。

ディーゼル軽油



⑭

⚠警告

● トラックへの積込み、積降ろしは車両が転落して、死傷するおそれがありますので、次のことを厳守してください。
[1] 平たんで地盤の固いところで行なってください。
[2] 道板の角度は15°以下にしてください。
[3] 道板は、引っ掛け金具があり、幅、長さ、強度が十分あるものを使用してください。
[4] 作業機、荷台および作業台は下げて、低速で行なってください。
[5] 道板上ではぜったいに進路変更、変速はしないでください。

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。
(保証書は、本書の最終ページに「安全説明確認カード」と共に添付しております。)

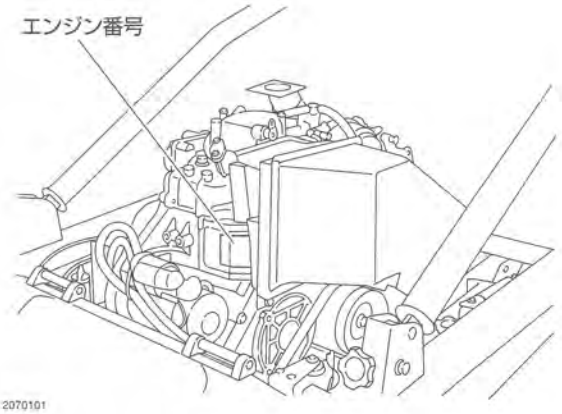
アフターサービスをお受けになるときは

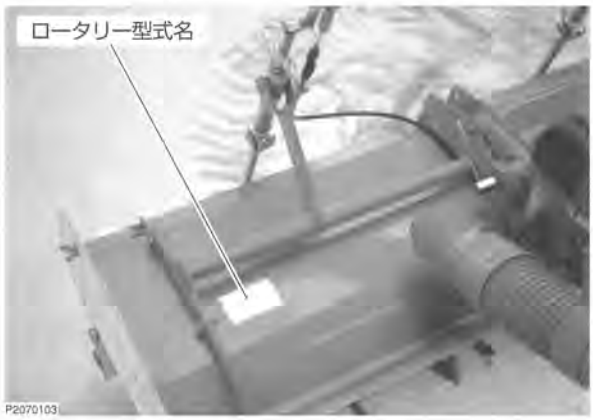
機械の調子が悪いときに92ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店、JA、お近くの当社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  (車速や、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
  (約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





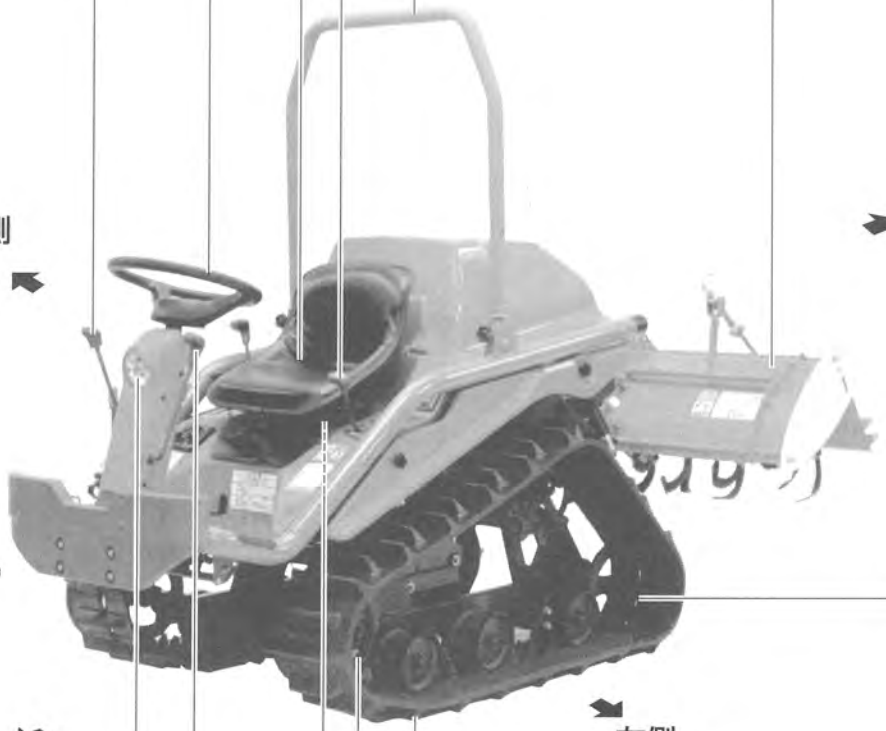


〈補修部品の供給年限について〉

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3章 各部のなまえ

※写真は標準ロータリーを装着した状態です。



シート

ハンドル

アクセルレバー

右側

機体前方

ライト

前後進レバー

走行変速レバー

補助フレーム

ロータリー
(仕様設定)

機体後方

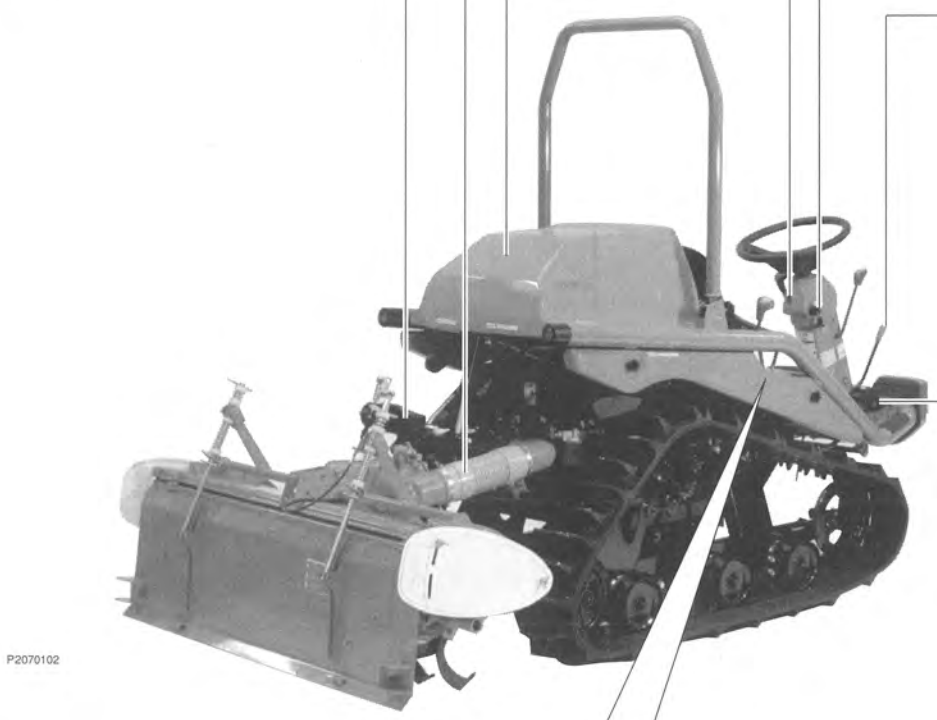
リヤアイドラ

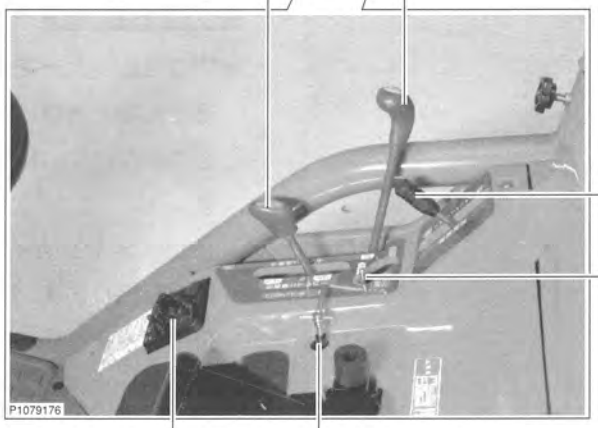
左側

クローラ

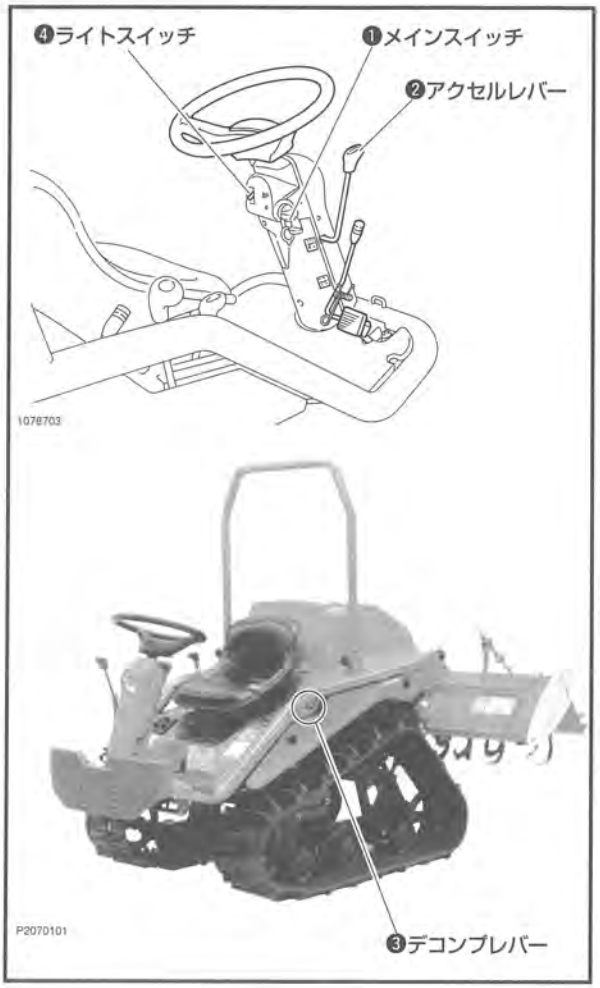
フロントアイドラ

燃料給油口


ボンネット
耕うん変速ケース
マフラー
ライトスイッチ
メインスイッチ
手動用
ブレーキレバー
ブレーキペダル
P2070102


作業機上下レバー
作業機
クラッチレバー
耕深調節レバー
油圧ロックレバー
JACコントローラボックス
(JAC仕様)
バックアップ切替レバー
P1079176

エンジンコントロール関係



❶メインスイッチ

エンジンへの燃料の供給やエンジンの始動に使用します。



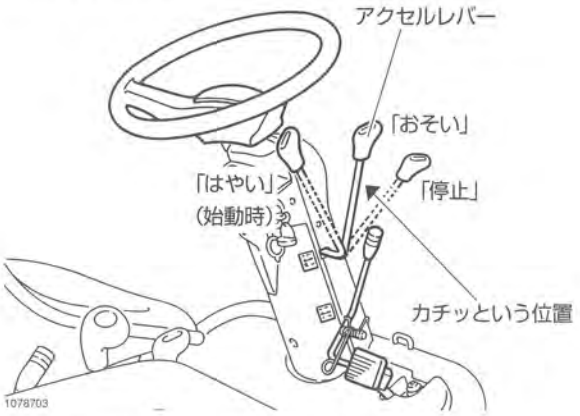
- 「切」位置…… エンジンへの燃料の供給が停止します。
  エンジン停止はアクセルレバーで行います。
  電流は流れません。
  （キーを抜き差しする位置です。）
- 「入」位置……連続運転が行えます。
- 「始動」位置……セルモータが回転し、エンジンが始動します。
  エンジン始動後は、キーから手を離してください。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入ります。

取扱いの注意

- **アクセルレバーを「停止」位置にしてエンジンを停止したときは、メインスイッチも「切」位置にしてください。電装品のトラブルの原因になります。**
  また、メインスイッチを「切」位置にしないと、警報が鳴ります。警報は、メインスイッチを「切」位置にすると止まります。

❷アクセルレバー

エンジンの始動時・停止時、エンジン回転の上げ下げに使用します。

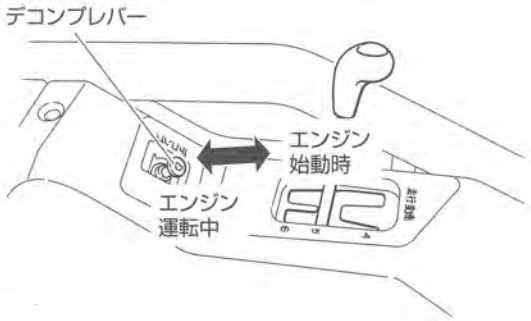


- 「はやい」側……エンジン回転が上がる。
- 「おそい」側……エンジン回転が下がる。
- 「停止」位置……エンジンが停止する。

エンジンの始動をする場合は、「はやい」側へいっぱいに倒してください。

❸デコンプレバー

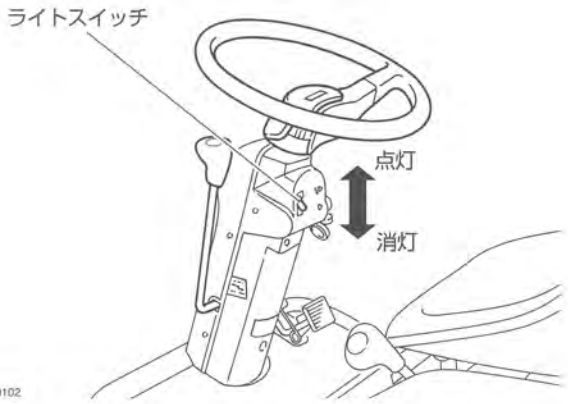
エンジンの圧縮を抜くときに使用します。



エンジン始動時に、レバーを引くとエンジンの圧縮が抜け、エンジンの始動がしやすくなります。
セルモータが回ったら、すばやく押し戻してください。

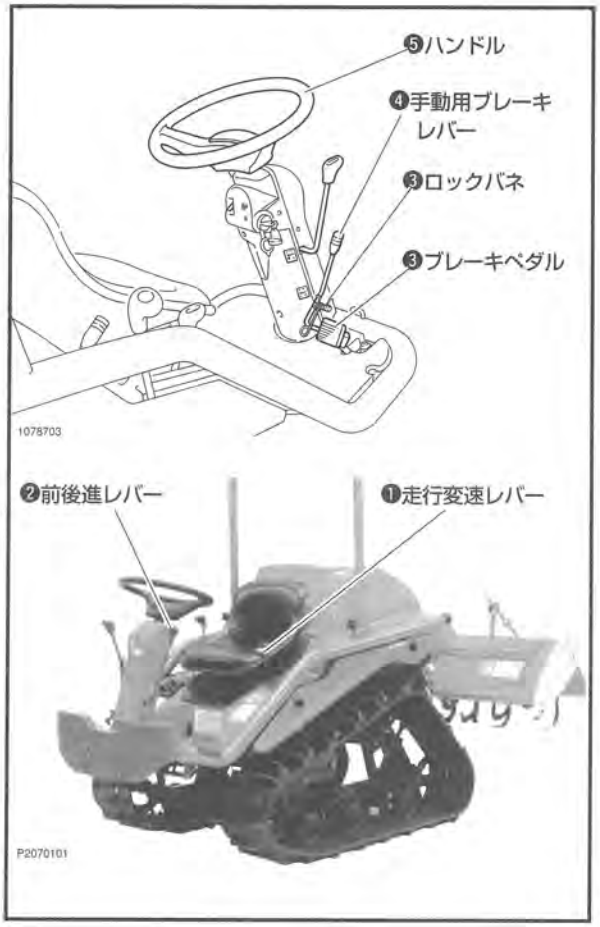
❹ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯に使用します。



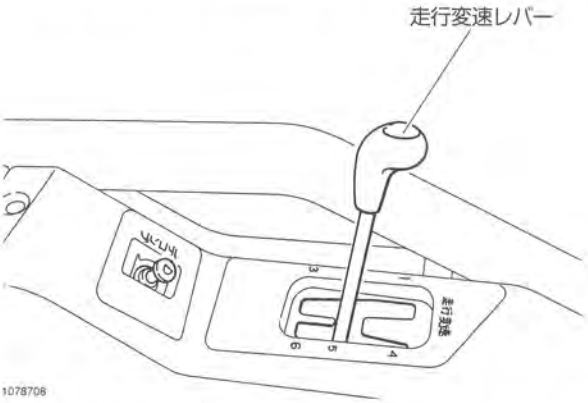
- 上方にする……ライトが点灯する。
- 下方にする……ライトが消灯する。

走行関係



❶走行変速レバー

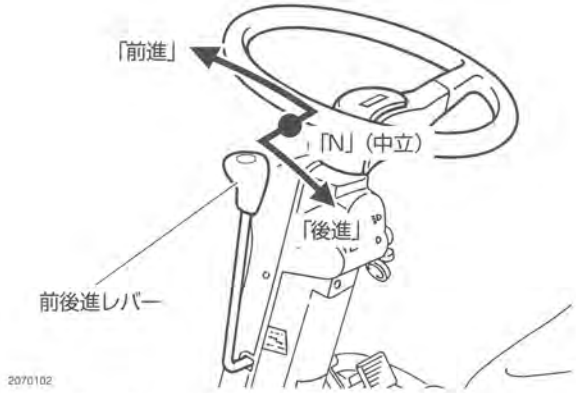
走行速度を調節するときに使用します。



レバーを操作して、走行速度を6段階に変速できます。

❷前後進レバー

前後進の切り替えを行うときに使用します。



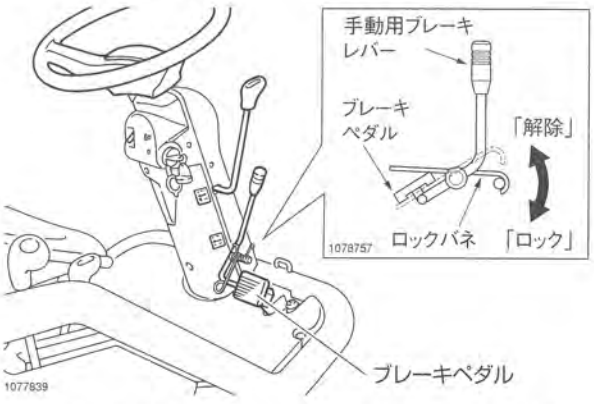
- 「前進」側……機体が前進します。
- 「後進」側……機体が後進します。
- 「N」(中立)位置……駆動を断ちます。

取扱いの注意

- **前後進レバーは、「前進」側・「後進」側それぞれいっぱいまで操作してください。中間位置で使用すると半クラッチ状態になり、故障の原因になります。**

❸ブレーキペダル・ロックバネ

機体を停止するとき、および駐車ブレーキをかけるときに使用します



ブレーキペダルを踏み込むと、機体が停止します。また、ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ロックバネでブレーキペダルを固定すると、駐車ブレーキになります。

〈ブレーキ連動機構について〉
作業中にブレーキペダルを踏み込むと、機体が停止すると同時に、前後進レバーが「N」（中立）位置になります。
作業を再開するときは、ブレーキペダルから足を離し、前後進レバーを「前進」位置にしてください。

❹手動用ブレーキレバー

機体から降りて歩行操作するときに、使用するブレーキレバーです。



手動用ブレーキレバーを矢印方向に操作すると、機体が停止します。

⚠注意

- **旋回するときは作業機を上げて行ってください。守らないと事故をおこしたり作業機を破損するおそれがあります。**
- **旋回するときは速度を十分に落として、ゆっくりなめらかに旋回してください。**

❺ハンドル

機体を旋回するときに使用します。

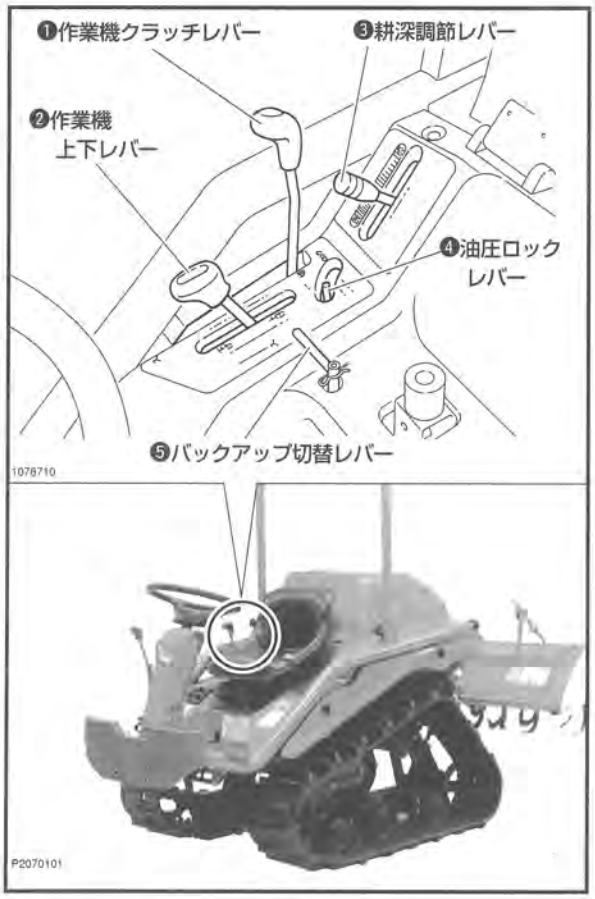


ハンドルを回すと、回した方向に機体が旋回します。

旋回半径は、ハンドルの回し量が同じでも走行変速の1速～6速になるにしたがって大きくなります。

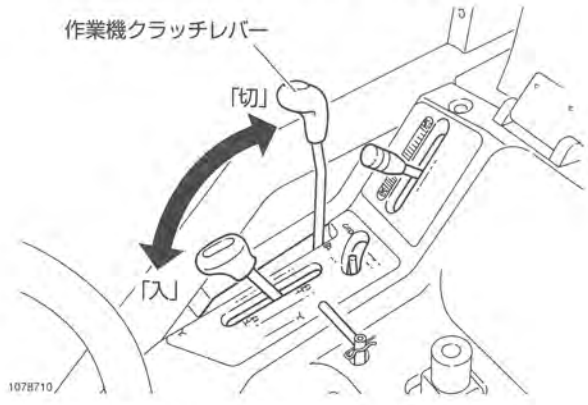
- 1速では……ハンドルを回し始めると、内側のクローラ速度が徐々に遅くなり緩旋回します。さらにハンドルを回すと、内側のクローラは逆回転となり、スピンターン（その場旋回）します。
- 2速では……ハンドルを回し始めると、内側のクローラ速度が徐々に遅くなり緩旋回します。さらにハンドルを回すと、内側のクローラはほぼ停止した状態となって旋回します。
  ハンドルをいっぱい回しても、旋回半径は1速よりも大きくなります。
- 3速～6速 …ハンドルを回し始めると、内側のクローラ速度が徐々に遅くなり緩旋回します。
  ハンドルをいっぱい回しても緩旋回のままで、旋回半径は2速よりも3速が大きく4速→5速→6速の順に大きくなります。

作業機操作関係



❶作業機クラッチレバー

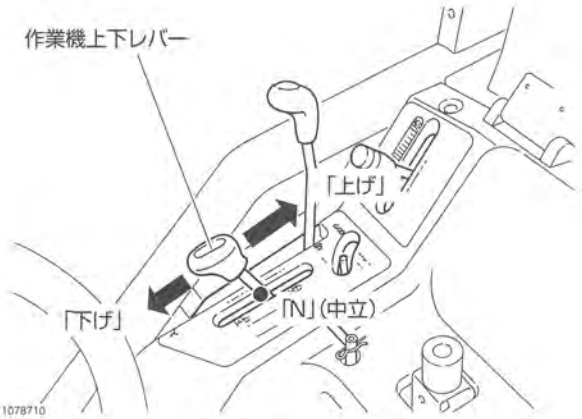
作業機（PTO）を駆動するときに使用します。



- 「入」位置……作業機が駆動する。
- 「切」位置……作業機の駆動を断つ。

❷作業機上下レバー

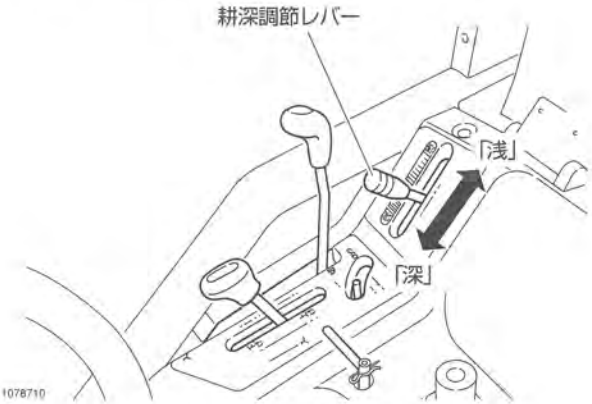
作業機の昇降に使用します。



- 「上げ」位置……作業機が上昇する。
- 「下げ」位置……作業機が下降する。
- 「N」(中立) 位置……作業機の昇降が停止する。

❸耕深調節レバー

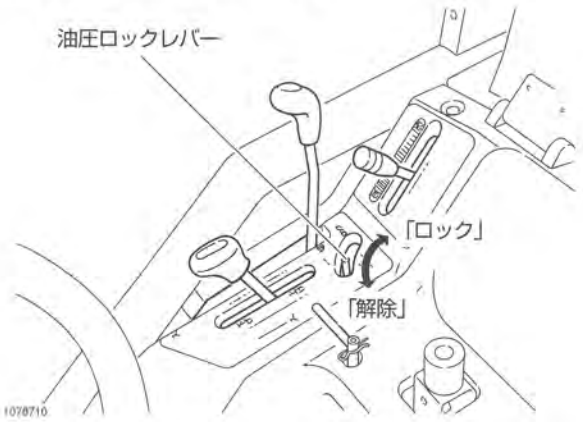
オートロータリ作業での耕深調節をするときに使用します。



- 「深」位置……耕うん深さが深くなる。
- 「浅」位置……耕うん深さが浅くなる。

❹油圧ロックレバー

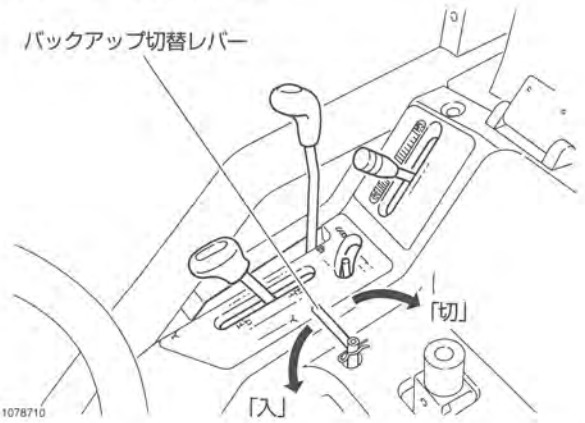
作業機の下降の油圧をストップし、作業機の下降をロックするのに使用します。



- 「ロック」位置……作業機下降の油圧が止まる。
- 「解除」位置……作業機の昇降ができる。

❺バックアップ切替レバー

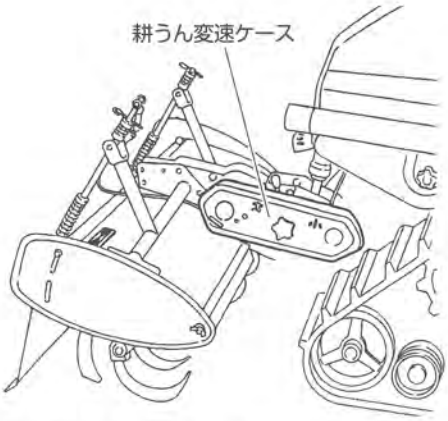
後進するときに、作業機が自動的に上昇する機能の切り替えに使用します。



- 「入」位置……前後進レバーを「後進」側にして、後進すると作業機が自動的に上昇する。
  （後進時の作業機上げ忘れによる破損を防止するとき）
- 「切」位置……前後進レバーを「後進」側にしても作業機は上昇しない。
  （作業機の脱着を行うとき）

❻耕うん変速ケース

土塊の大きさを変えるときに使用します。



作業機側に耕うん変速ケースの「大」が来るように取り付けると土塊が大きくなり、「小」を向けると土塊が小さくできます。

5章 JAC仕様について

⚠警告

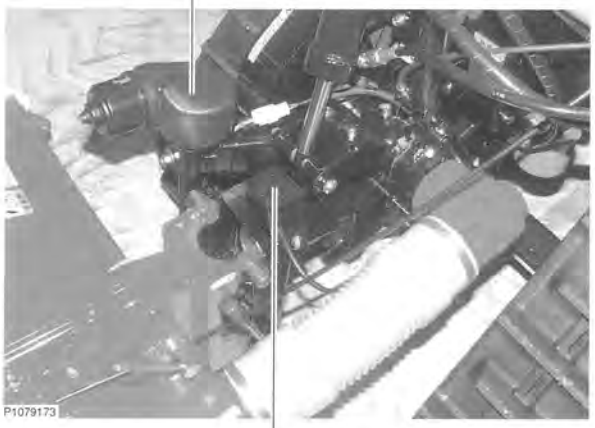
- 移動走行時は、手動・自動切換スイッチを「手動」位置にしてください。守らないと思わぬ事故の原因になります。
- 長期保管の場合は、キーを抜いておいてください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

取扱いの注意

- エンジン始動、キースイッチ「ON」で操作してください。（エンジン停止、キースイッチ「ON」で操作しますとバッテリーの寿命が短くなります。）
- 洗車の（特に高圧洗車）ときは、コントローラボックスへの直接洗車はさけてください
- 電動シリンダに異常な負荷が発生した場合、安全装置が働きJAC制御を一時的に停止する場合があります。停止してから１～２分後に、JAC制御は自動的に復帰します。（停止状態では、「手動」・「自動」操作共に作動しません。）

1.各部のなまえとはたらき

●電動シリンダ
コントローラからの信号によって伸び縮みします。



●JACコントローラボックス
スイングセンサーの信号を受けて電動シリンダを作動させます。



●スイングセンサー
作業機の傾きを検知してコントローラに信号を送ります。
作業機の水平が出ていないときは、スイングダイヤルが中立位置（ノッチでカチッという音がする）にあるのを確認後、スイングセンサー右側のナットを緩めて、ボルトで水平を出し、確実にナットを締めてください。

2.操作スイッチの使いかた

❶手動・自動切換スイッチ

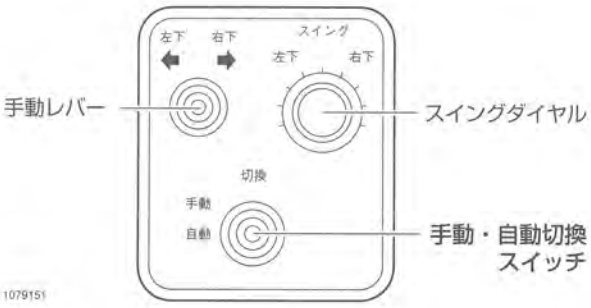
- **「手動」にすると**

  手動レバーによって、電動シリンダを任意の長さに調節できます。

  スイングセンサーが「切」となるため自動運転はできません。

- **「自動」にすると**

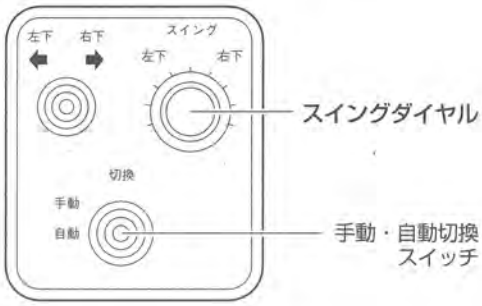
  スイングセンサーが働き、作業機を自動的にスイングダイヤルで設定した角度に保ちます。



❷スイングダイヤル

手動・自動切換スイッチ「**自動**」位置で、スイングダイヤルによって作業機を「**左下**」～「**水平**」～「**右下**」の任意の角度に設定することができます。

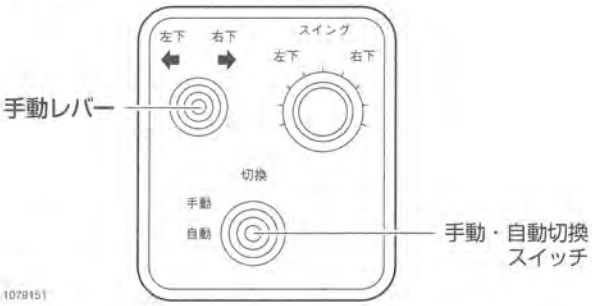
作業中、作業機は設定した角度に自動的に保たれます。



❸手動レバー

手動レバーを「**右下**」または「**左下**」に倒すことにより、電動シリンダを伸び、縮みさせることができます。

手動・自動切換スイッチが「**自動**」の場合は作動しません。



3.操作スイッチと作業機の動き

		手動・自動切換スイッチ	
		「 手　動 」	「 自　動 」
手動レバー	「右下」	電動シリンダは縮み、作業機は右下りとなる。	作動しません。
	「左下」	電動シリンダは伸び、作業機は左下りとなる。	作動しません。
スイング ダイヤル	「右下」	作動しません。	電動シリンダは縮み、作業機は右下りとなる。
	「左下」	作動しません。	電動シリンダは伸び、作業機は左下りとなる。

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、必ず点検してください。
  守らないと、火災を起こすおそれがあります。

⚠警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしないで平坦で安定した場所で車止めをした上で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど事故を起こすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。

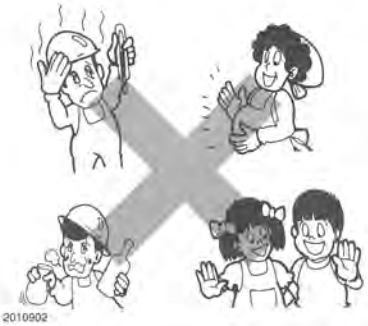
⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 乗用耕うん機を使用しないときは必ずキーを抜いてキャップを取り付け、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

作業は、健康な状態のときに行ってください。
過労・病気・薬物の影響、その他の理由で集中できないときには、作業を行わないでください。
※特に、お酒を飲んでいる・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。


2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。

※タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。


2010903

2. 本機の点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところがありませんか	
本機の周りを回ってみて	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか	86
	●燃料の量と燃料もれはありませんか	77
	●クローラの張り、摩耗度合い・損傷はありませんか	91
	●各部注油・給脂箇所の油切れはありませんか	76・77
ボンネットを開けてみて・サイドカバーを外してみて	●エンジンオイル量と汚れ、油もれはありませんか	78
	●バッテリの液面は規定量ありますか	87・88
	●エアクリーナーの汚れはありませんか	82
	●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか	90
	●ベルトの張りと損傷はありませんか	83・84
運転席に座ってみて	●ランプ・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●ドライバーシートの取付位置は、体格に合っていますか	40
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異音はありませんか	
	●排気ガスの色は正常ですか	91
	●各操作レバー・スイッチの作動状態は正常ですか	

7章 運転・移動のしかた

1.本機への乗り降りのしかた

乗り降りするときは、左側から行ってください。

取扱いの注意

- **操作レバーを持って乗降しないでください。**

2.シート位置の調節のしかた

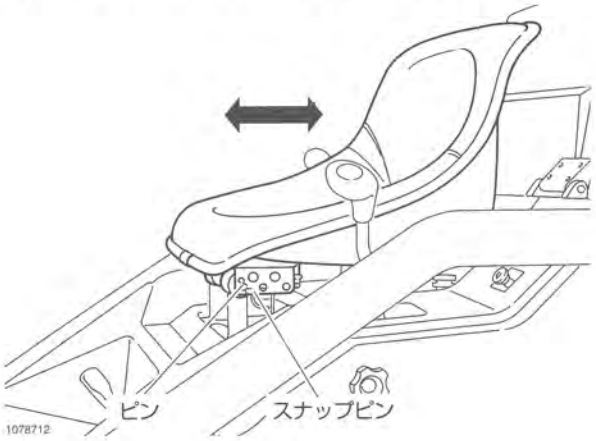
ドライバーシートの取付位置を、運転者の体格に合わせて3段階に調節できます。

〈調節のしかた〉

❶スナップピンを外し、ピンを抜いてください。

❷ドライバーシートの取付位置を前後に調節してください。

❸ピンを差し込み、スナップピンで固定してください。



3.エンジンの始動のしかた

⚠警告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で死亡事故につながるおそれがあります。

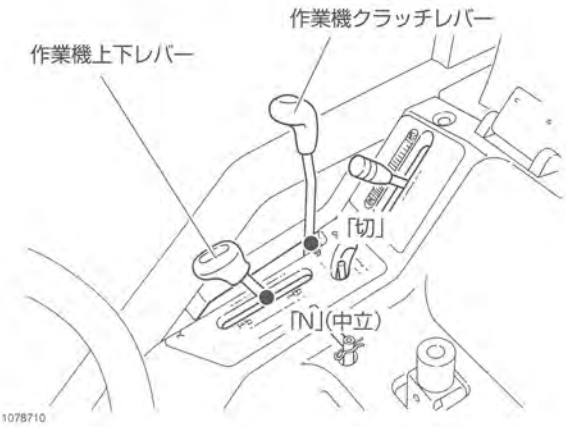
⚠注意

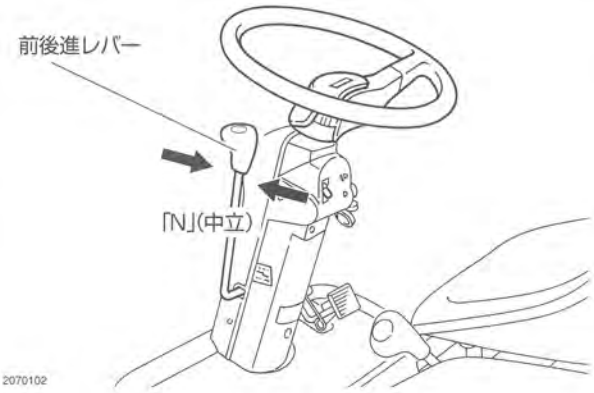
- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。
- エンジン始動前は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。急に機械が動きだして、傷害事故の原因となります。
- 必ず運転席に座ってエンジンを始動してください。無理な姿勢でエンジンを始動すると転倒や傷害事故の原因になります。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。機械が動き出したりして、傷害事故の原因になります。

1.エンジン始動前の確認・準備

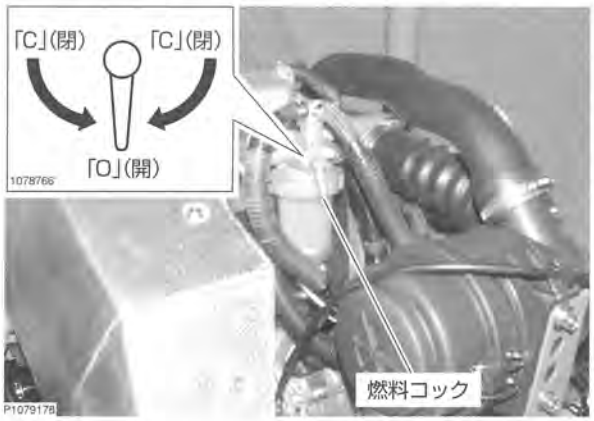
❶エンジン始動前に、次の箇所を確認してください。

- 作業機上下レバーは「N」(中立) 位置。
- 作業機クラッチレバーは「切」位置。
- 前後進レバーは「N」(中立) 位置。



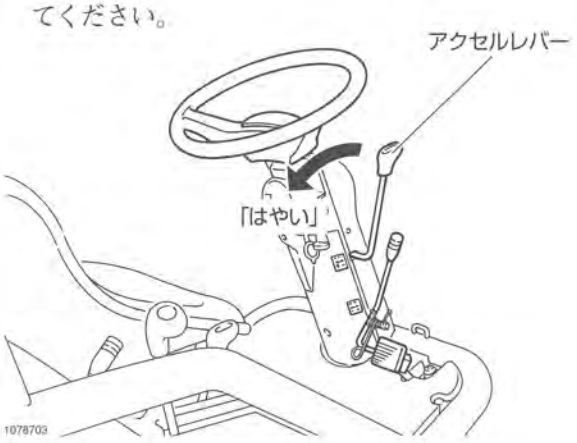


❷燃料コックを「O」(開) 位置にしてください。



2.エンジン始動操作のしかた

❶アクセルレバーを「はやい」側へいっぱいに倒してください。



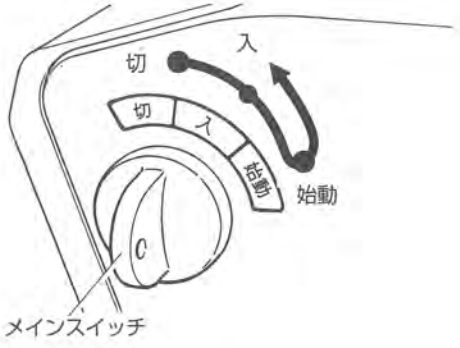
❷メインスイッチにキーを差し込んでください

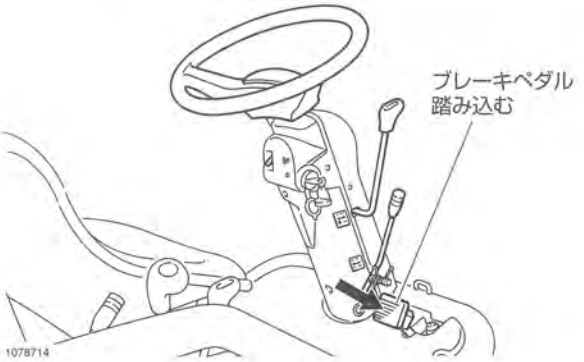
❸ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください

取扱いの注意

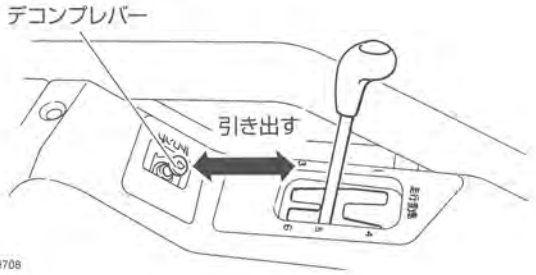
● ブレーキペダルは、いっぱいまで踏み込まないと、エンジンの始動ができません。

❹メインスイッチを「入」位置から「始動」位置に回してください。セルモータが回転し、エンジンが始動します。





● エンジンが始動しにくいときは、デコンプレバーを引いてください。セルモータが回ったら、すばやく押し戻してください。



取扱いの注意

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
  10秒以内で始動しなかった場合は、いったんメインスイッチを「切」位置してから、1分以上経ってから、再び始動してください。

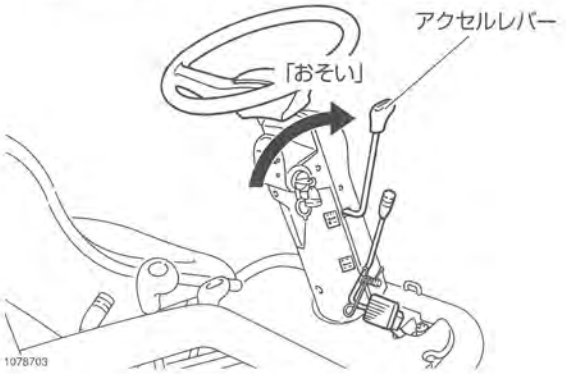
❺エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。メインスイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

取扱いの注意

- エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。
- 外部電源での始動作業は、絶対に行わないでください。

4.暖機運転のしかた

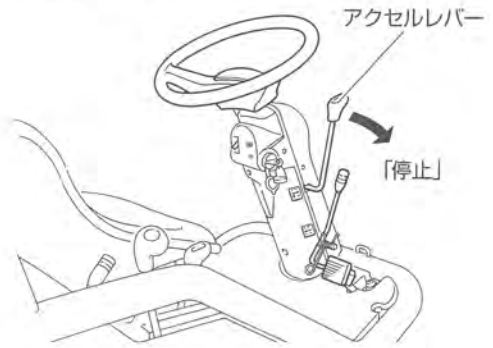
❶エンジン始動後、アクセルレバーを「おそい」側に戻します。そのとき、カチッという感触のある位置よりも「おそい」側に戻さないでください。戻すとエンジンが停止します。



❷エンジン始動後、約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたまま暖機運転（ならし運転）をしてください。

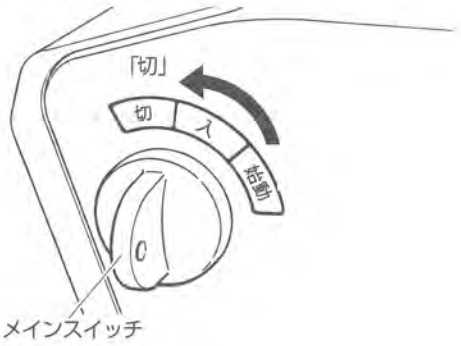
5.エンジンの停止のしかた

❶アクセルレバーを「停止」側にしてください。エンジンが停止します。



❷メインスイッチを「切」位置にしてください。

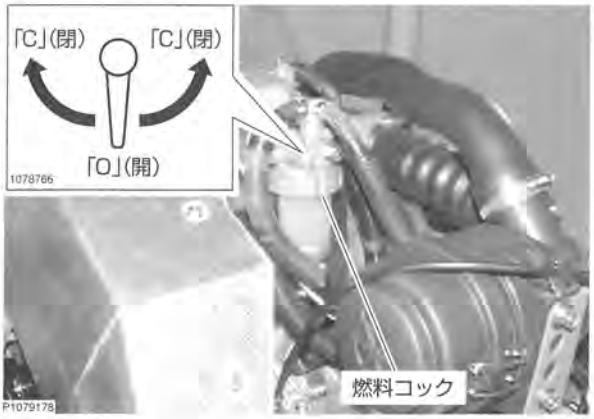
❸キーを抜いてください。



取扱いの注意

- エンジンを確実に停止させ、その後にメインスイッチ「切」位置にしてください。守らないと、電装品のトラブルの原因になります。
  また、メインスイッチを「切」位置にしないと、警報が鳴ります。警報は、メインスイッチを「切」位置にすると止まります。

❹燃料コックを「C」(閉) 位置にしてください。



6.作業機の昇降のしかた

⚠注意

- 人が作業機の下にいないことや、足を踏み込んだりしていないことを確認してから操作してください。守らないと傷害事故を起こすおそれがあります。

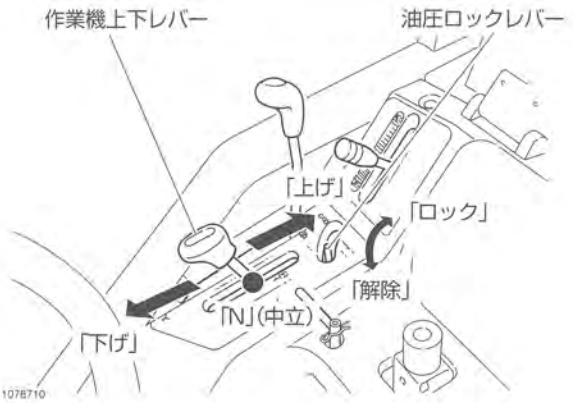
ロータリーなどの作業機の昇降は、作業機上下レバーを操作して行ってください。

❶エンジンを始動してください。
(→41～43ページ参照)

❷油圧ロックレバーを「解除」位置にしてください。

❸作業機上下レバーを「N」(中立) 位置から「上げ」「下げ」位置に操作して、作業機を昇降してください。

❹必要に応じて、油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。



取扱いの注意

- 作業機を降ろすときは、油圧ロックレバーを「解除」位置にしてください。「ロック」位置では作業機を降ろすことはできません。

7.発進のしかた

⚠警告

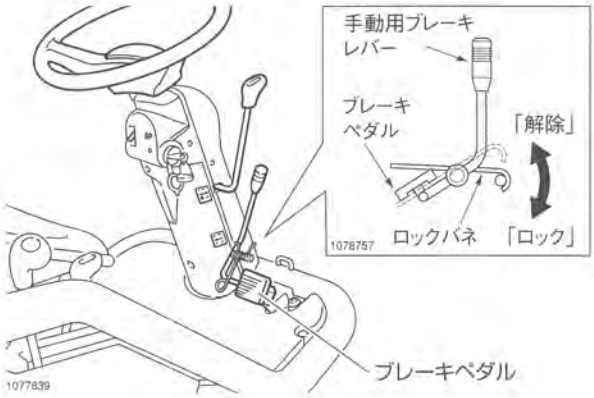
- 作業中および移動中は、ヘルメットをかぶってください。
- 前後進レバーを「前進」・「後進」位置に入れ始めるときは、ハンドル操作をしないでください。走行変速レバーが変速位置に確実に入っていないと、本機が急に旋回し、事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業機を取り外したときは、フロントウエイトを取り外してください。守らないと、急ブレーキをかけたとき、前方への転倒による事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

- 発進するときは周囲の安全を確かめて、ゆっくりと発進してください。機械の陰に人、特に子供がいたりすると傷害事故につながります。

1.発進前の準備

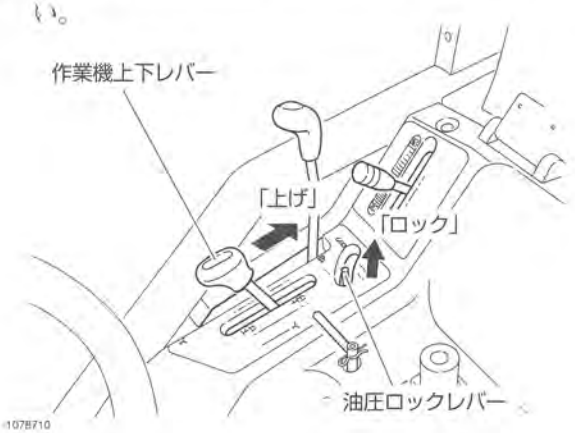
❶ブレーキペダルのロックバネを解除して、駐車ブレーキを解除してください。



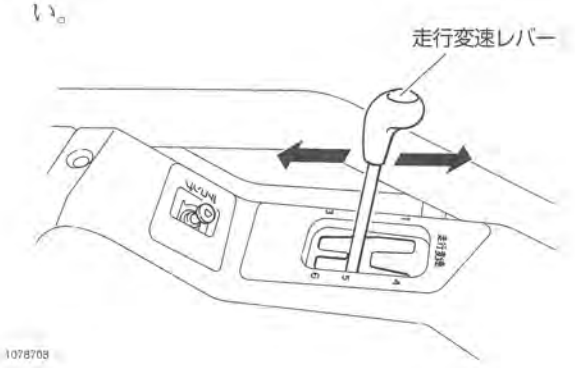
❷エンジンを始動してください。
(➜41～43ページ参照)

❸作業機上下レバーを「上げ」位置にし、作業機を最上げ位置にしてください。
(作業機が最上げ位置になると、作業機上下レバーは自動的に「N」(中立) 位置に戻ります。)

❹油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。



❺走行変速レバーを任意の速度段に入れてください。

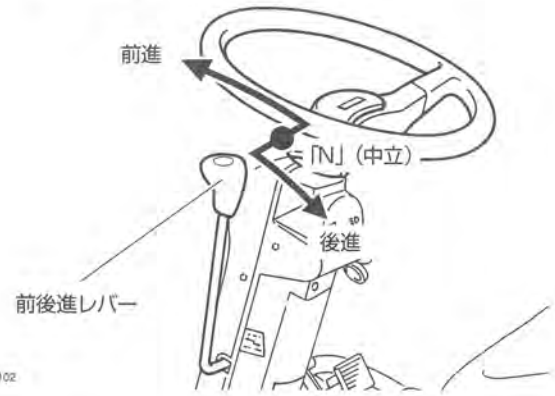


2.発進操作のしかた

❶ハンドルを右手でもってください。

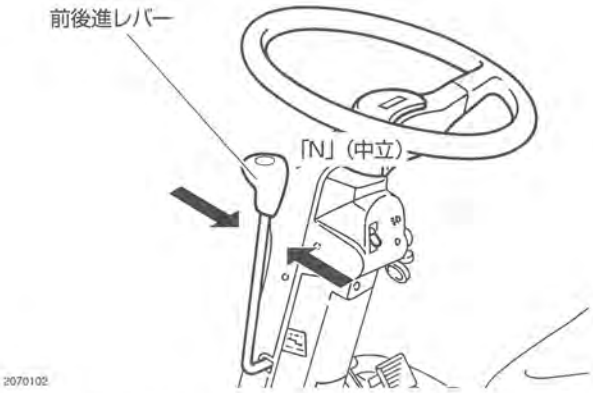
❷左手で前後進レバーを徐々に「前進」側、または「後進」側に倒して、ゆっくり発進してください。

1) 周囲の安全を十分に確認する。
2) 前後進レバーを「N」(中立) 位置から、ゆっくり倒して発進する。
3) 発進後、前後進レバーをさらにいっぱいまで倒す。
4) アクセルレバーで希望の速度になったら、前後進レバーから左手を離して、ハンドルを両手で持つ。

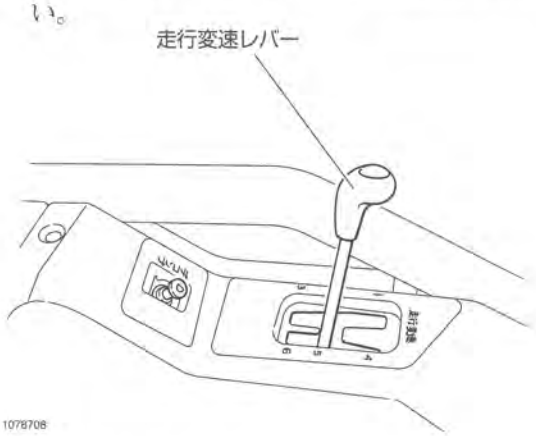


8.変速のしかた

❶前後進レバーを「N」(中立) 位置にしてください。機体が停止します。



❷走行変速レバーを任意の位置に入れ直してください。



取扱いの注意

- **走行中や作業中は、前後進レバーをいっぱいまで倒してください。中間位置では、半クラッチ状態となっているため、そのまま走行や作業を続けますとクラッチ板が焼損するおそれがあります。**

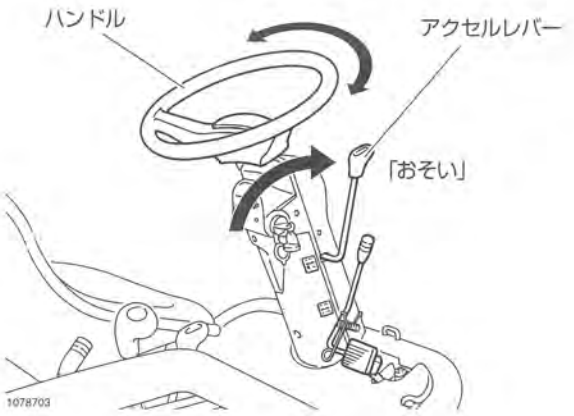
9.旋回のしかた

⚠警告

- **高速での急旋回は危険です。必ず速度を落として行ってください。守らないと機械の転倒などの事故の原因になります。**
- **旋回半径は、ハンドルの回し量が同じでも走行変速の1速～6速になるにしたがって大きくなりますので速度を十分に落としてゆっくりなめらかに旋回してください。**
  守らないと、転倒・転落・衝突事故を起こすおそれがあります。

❶アクセルレバーを「おそい」側にして、減速してください。

❷ハンドルを旋回したい方向に、回してください。その方向に機体が旋回します。



参考

1速では ……ハンドルを回し始めると、内側のクローラ速度が徐々に遅くなり緩旋回します。さらにハンドルを回すと、内側のクローラは逆回転となり、スピンターン（その場旋回）します。

2速では ……ハンドルを回し始めると、内側のクローラ速度が徐々に遅くなり緩旋回します。さらにハンドルを回すと、内側のクローラはほぼ停止した状態となって旋回します。
ハンドルをいっぱい回しても、旋回半径は1速よりも大きくなります。

3速～6速 ……ハンドルを回し始めると、内側のクローラ速度が徐々に遅くなり緩旋回します。
ハンドルをいっぱい回しても緩旋回のままで、旋回半径は2速よりも3速が大きく4速→5速→6速の順に大きくなります。

10.停車のしかた

〈ブレーキペダルでの停車のしかた〉

❶ブレーキペダルを踏み込んでください。機体が停車します。

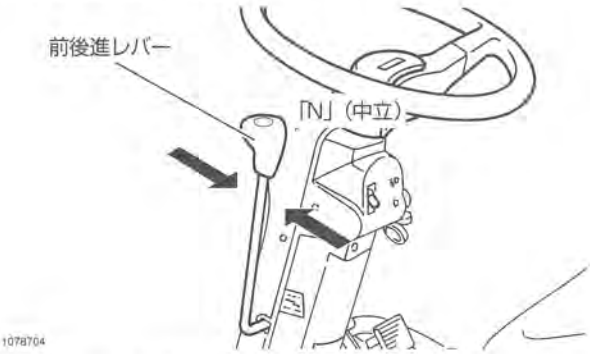


❷エンジンを停止してください。(➔44ページ参照)

〈前後進レバーでの停車のしかた〉

❶アクセルレバーを「おそい」側にして、減速してください。

❷前後進レバーを「N」(中立) 位置にしてください。機体が停車します。



❸エンジンを停止してください。(➔44ページ参照)

取扱いの注意

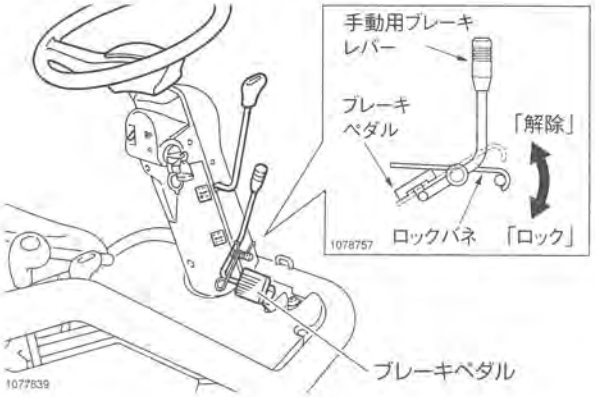
- 前後進レバーは確実に「N」(中立) 位置 (ストッパーに当たる位置) に戻してください。中間位置で止めると半クラッチ状態になっているため、機械が動き出すおそれがあります。

11.駐車のしかた

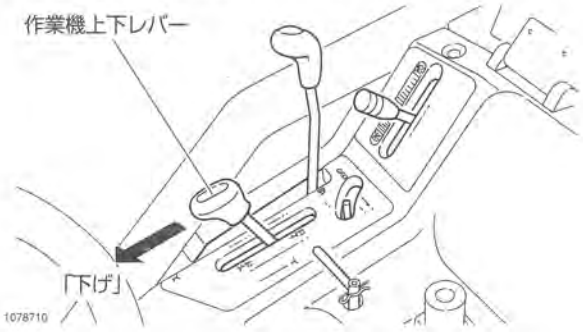
❶平坦で安全な場所に、機体を移動してください。

❷前述の「10.停車のしかた」の操作をしてください。

❸ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、ロックバネでペダルを固定し、駐車ブレーキをかけてください。



❹作業機上下レバーを「下げ」位置にして、作業機を最下げ位置にしてください。



❺機械から離れる場合は、必ずメインスイッチからキーを抜いてください。



取扱いの注意

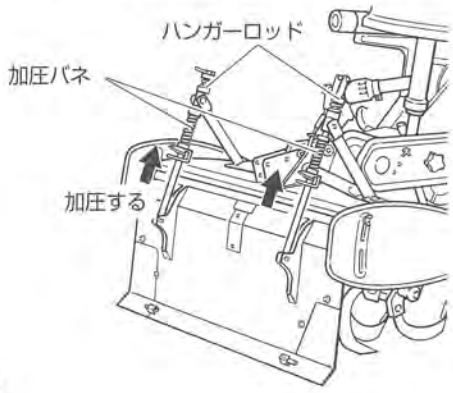
- 駐車ブレーキをロックした状態で、前後進レバーを「前進」「後進」位置にしないでください。クラッチ板が損傷するおそれがあります。

12.移動走行のしかた

⚠警告

- 旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また坂道や凹凸道、カーブの多い場所では、十分スピードを落としてください。
  守らないと、転倒・転落事故を起こすおそれがあります。
- 旋回半径は、ハンドルの回し量が同じでも走行変速の1速～6速になるにしたがって大きくなりますので速度を十分に落としてゆっくりなめらかに旋回してください。
  守らないと、転倒・転落・衝突事故を起こすおそれがあります。
- 本製品の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、傷害事故をまねくおそれがあります。
- 傾斜地では、転倒のおそれがありますので、スピードを落とし十分注意して移動してください。また、状況によっては歩行操作で移動してください。なお、歩行操作での移動方法は、51ページの「14. 歩行操作での移動のしかた」を参照してください。
- 狭い農道などを走行する場合は、路肩から転落しないように注意してください。

❶左右のハンガーロッドの加圧バネを押し上げて、リヤカバーの振れ止めを行ってください。



❷作業機クラッチレバーを「切」位置にしてください。

⚠注意

〈作業機クラッチレバーを「切」位置にする場合〉

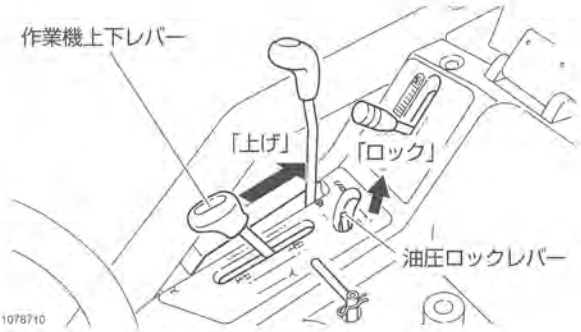
- 作業機クラッチレバーはバネによって勢いよく「切」側へ戻ろうとしますので、「切」側へ手を置かないでください。レバーにはさまれて、ケガをするおそれがあります。



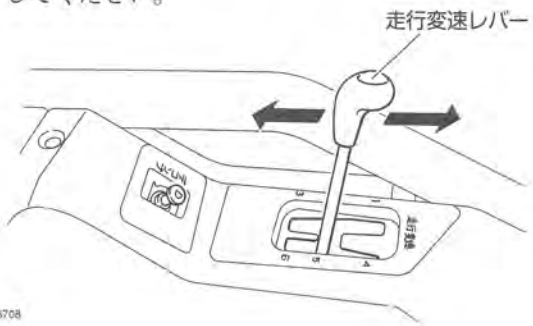
❸エンジンを始動してください。
(➔45～47ページ参照)

❹作業機上下レバーを「上げ」位置にしてください。作業機が上昇します。

❺油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。



❻走行変速レバーを任意の速度段に入れ、アクセルレバーを「おそい」側にして走行してください。速度を上げたいときは、アクセルレバーで調節をしてください。



取扱いの注意

- **移動走行が終わった後は、加圧バネを適正な位置に戻してください。戻し忘れると、耕うん作業時に耕うん深さの調節ができなくなります。**

坂道での走行のしかた

⚠警告

- **あらかじめ走行変速レバーで適正な速度段を選択し、坂道の途中では変速しないでください。本機が急に下がって大変危険です。**
- **坂道では、駐車しないでください。守らないと、思わぬ事故をまねくおそれがあります。**
- **発進するときは、ゆっくり行ってください。前部がはね上がり大変危険です。**

急な坂道を、重い作業機を装着して走行する場合や、湿田で前部が浮く場合は、フロントウエイトを装着してください。

品　名	コードNo.
フロントウエイト取付ブラケット	標準付属品

〈上り坂での発進のしかた〉

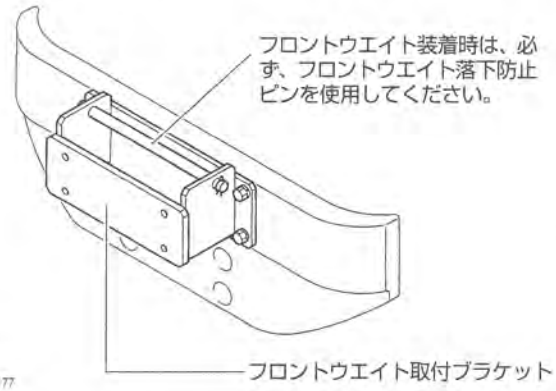
走行変速レバーを「1」速または「2」速にして、ゆっくり発進してください。急発進すると、車体前部がはね上がることがあります。

〈坂道での速度について〉

坂道ではゆっくり走行し、特に下り坂では、アクセルレバーを「おそい」側にし、エンジンブレーキを活用してください。

変速は、坂道を通りすぎてから行ってください。

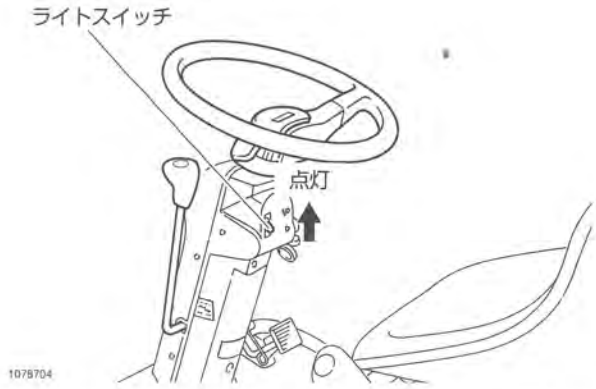
〈フロントウエイト取付ブラケット〉



フロントウエイト取付ブラケットは上図のように取り付けてください。

13.夜間走行のしかた

早朝や夕方などの視界が悪いとき、および夜間は、ライトを点灯してください。





14.歩行操作での移動のしかた

⚠危険

- 機械から降りての歩行操作での移動は、トラックへの積み・降ろし、あぜ越え、ほ場への出入り、坂道の移動など、乗車しての移動が困難な場所のみ行ってください。
- 走行変速「1」速、アクセルレバー「おそい」側いっぱいにして、最徐行速度で移動してください。

⚠警告

- 後退しながら操作するときは、後方および足元に十分注意してください。障害物にぶつかったり、挟まれたりしてケガをするおそれがあります。
  また、障害物につまずき、転倒して機械の下敷きなるおそれがありますので注意してください。
- 移動中は常に片手を手動用ブレーキレバーに添え、緊急時にはすばやくブレーキ操作が行えるようにしてください。守らないと、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 坂道・アユミ板の上・傾斜地では旋回操作を行わないでください。思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 手動用ブレーキレバーを操作して停止したら、前後進レバーが必ず「N」(中立)位置に戻っているか確認してください。手動用ブレーキレバーを離したときに、急に動き出すおそれがあります。
- ブレーキ操作後再び走行を開始するときは（特に坂道の場合)、ブレーキ解除と同時に前後進レバーを操作してください。車体が急に動き出し、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

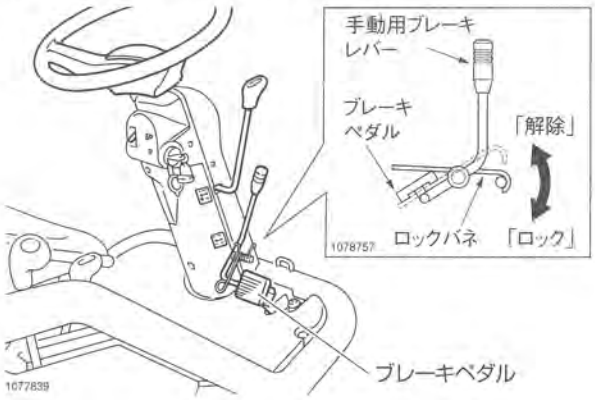
上り坂の移動のしかた

⚠警告

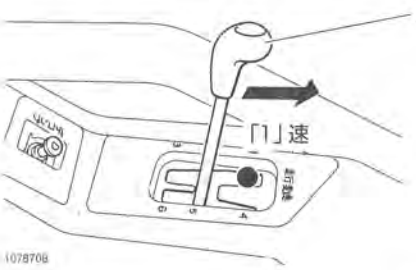
- 作業機側を前にして坂を上ってください。ハンドル側を前にして坂を上ると、転倒事故をまねくおそれがあります。
- エンジン始動は乗車状態で、必ず平坦な場所で行ってください。
  急に機械が動きだしたりして、傷害事故の原因になります。

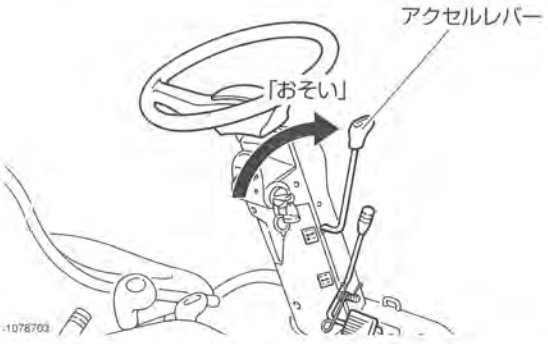
❶エンジンを始動してください。
(➔45～47ページ参照)

❷駐車ブレーキをかけてください。

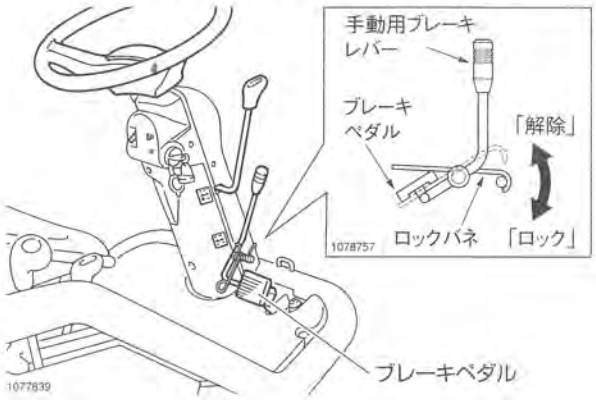


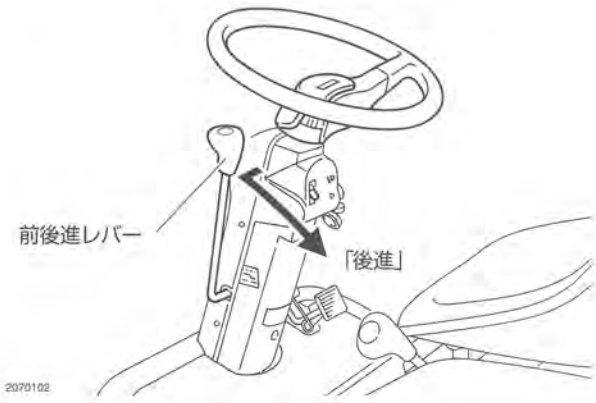
❸走行変速レバーを「1」速、アクセルレバーを「おそい」側にしてください。





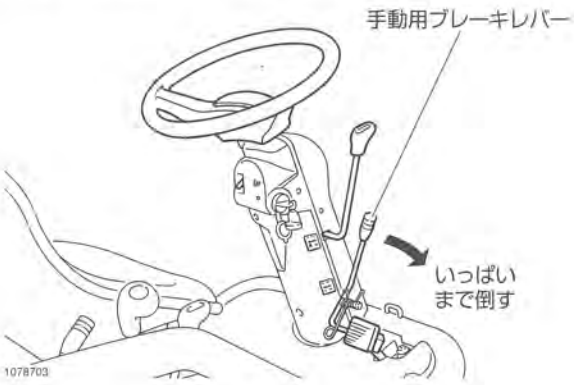
❹機体から降りて、ブレーキペダルのロックバネを解除して、ブレーキ解除と同時に前後進レバーを「後進」側にゆっくりといっぱいまで倒してください。作業機側を前にして走行します。





❺発進したら、片手は常に手動用ブレーキレバーに添えて、緊急時にはすばやく停車できるようにしてください。

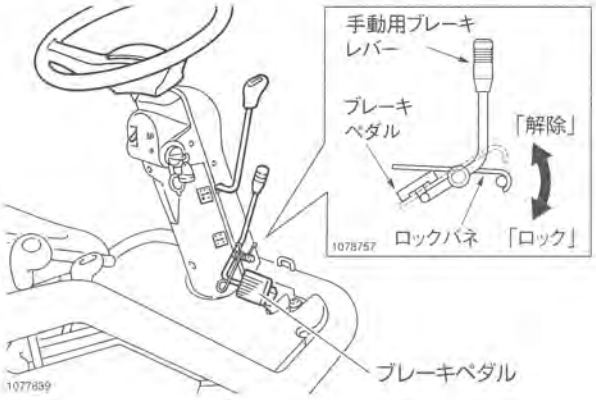
❻停車するときは、すばやく手動用ブレーキレバーをいっぱいまで倒してください。

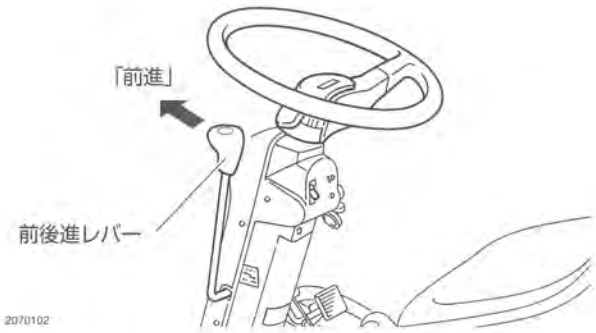


下り坂の移動のしかた

❶前述の「上り坂の移動のしかた」の❶～❸までの操作をしてください。

❷機体から降りて、ブレーキペダルのロックバネを解除して、ブレーキ解除と同時に前後進レバーを「前進」側にゆっくりといっぱいまで倒してください。ハンドル側を前にして走行します。





❸発進したら、片手は常に手動用ブレーキレバーに添えて、緊急時にはすばやく停車できるようにしてください。

❹停車するときは、すばやく手動用ブレーキレバーをいっぱいまで倒してください。



15. トラックでの運搬のしかた

⚠危険

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- 積み込みは「後進」、降ろすときは「前進」で行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。

アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- **長さ**…トラックの荷台高さの3.5倍以上。
- **幅**……履帯幅の1.2倍以上。
- **強度**…1枚が600kgに十分耐えられるもの。
- **表面**…すべらないよう処理してあるもの。
- 荷台に引っ掛けるためのフックが付いたもの。

トラックの準備

❶トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。

❷トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。

❸タイヤに車止めをしてください。

❹トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

本機の積み込みのしかた

❶作業機上下レバーで作業機を最上げ位置にしてください。

❷本機は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように方向を定め、走行変速レバーを「1」速、前後進レバーを「後進」側にして、慎重に積み込んでください。

トラックに積み込んだら

❶積み込みが終わったら、作業機上下レバーを「下げ」位置にして、作業機を荷台に接地させてください。

❷エンジンを停止してください。
(➔44ページ参照)

❸駐車ブレーキをかけてください。
(➔48ページ参照)

❹シャーシなどのしっかりした部分に、十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定してください。

降ろしかた

❶機体を固定しているロープを外してください。

❷エンジンを始動してください。
(➔41～43ページ参照)

❸作業機上下レバーを「上げ」位置にして、作業機を最上げ位置にしてください。

❹本機は、走行変速レバーを「1」速、前後進レバーを「前進」側にして、慎重に降ろしてください。

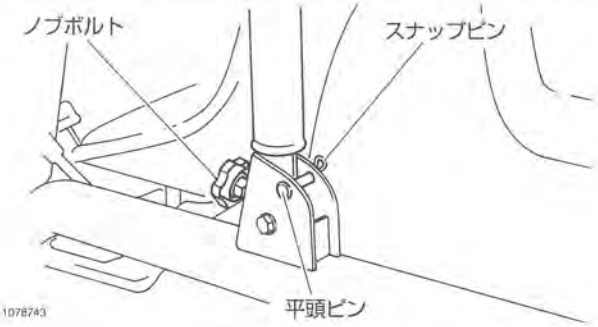
1.補助フレームの折りたたみかた

作業の状態に応じて、補助フレームを機体後方に折りたたんでください。



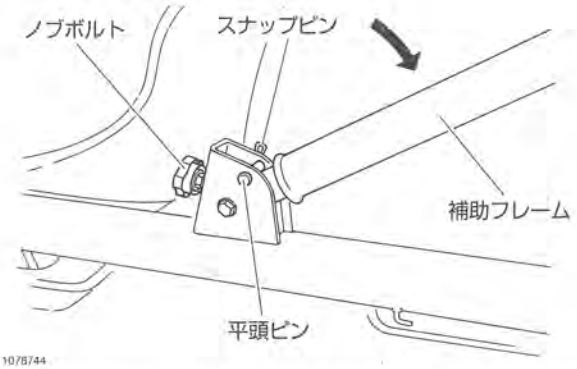
果樹園・ハウス作業、および格納するときなど、補助フレームが障害になる場合のみ折りたたんでください。

❶ノブボルトをゆるめて、スナップピンを外し、平頭ピンを取り外してください。(左右にあります。)



❷補助フレームを機体後方へ倒して、平頭ピンとスナップピンを取り付けてください。

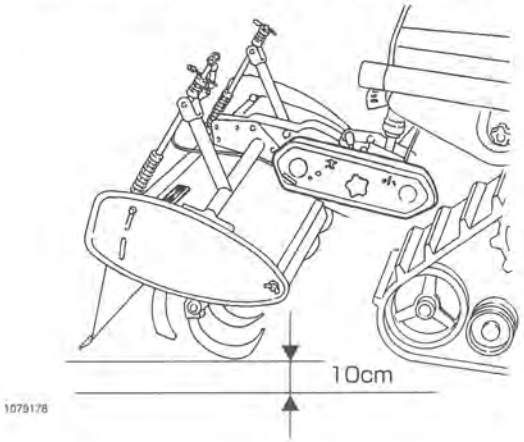
❸補助フレームの振れ止め防止のために、ノブボルトで固定してください。



❹補助フレームをセットするときは、折りたたみの逆の手順で行ってください。

2.耕うん変速ケースの振り替えかた

❶作業機上下レバーで、作業機の爪を地面より10cm程度上げて、エンジンを停止してください。



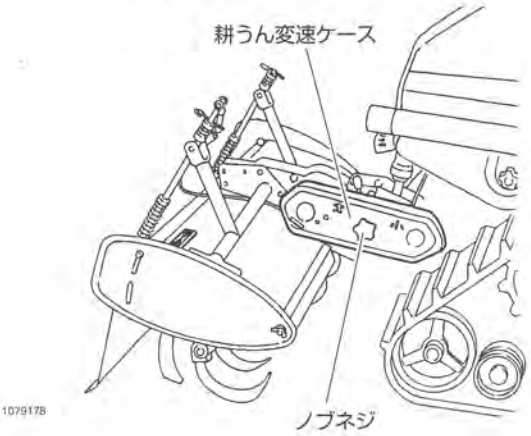
❷油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。



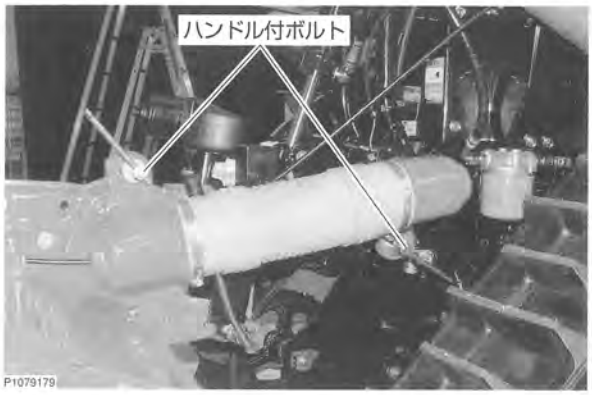
❸耕うん変速ケースを取り外します。

〈JAC無し〉

耕うん変速ケースのノブネジを外して、耕うん変速ケースを取り外してください。

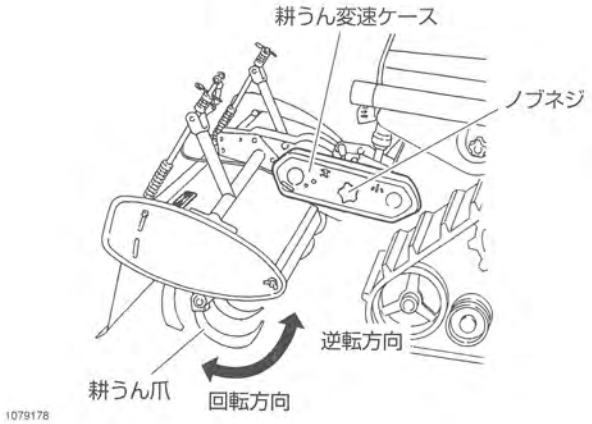


〈JAC仕様〉
耕うん変速ケースのハンドル付きボルト(2ヶ所)を外して、耕うん変速ケースを取り外してください。

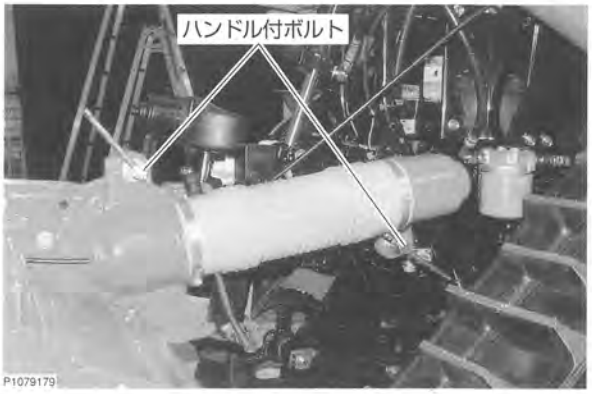


❹希望する土塊の大きさになるように、耕うん変速ケースを振り替えます。
作業機側に耕うん変速ケースの「大」が来るように取り付けると土塊が大きくなり、「小」を向けると土塊が小さくできます。

❺耕うん変速ケースを固定します。
〈JAC無し〉
耕うん変速ケースをノブネジで固定してください。



〈JAC仕様〉
耕うん変速ケースをハンドル付きボルトで固定してください。



参考

- 耕うん変速ケースが取り外しにくいときは、以下の要領で行ってください。
  1)作業機クラッチレバーを「切」位置にする。
  2)耕うん爪を手で、回転方向にガタガタと動かす。
  3)次に、逆転方向に少し回してから、耕うん変速ケースを取り外す。

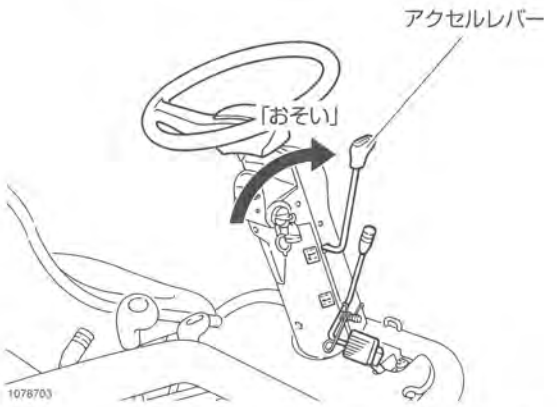
3.ほ場への出入りのしかた

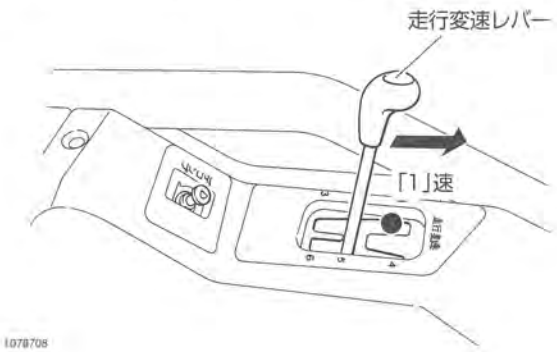
⚠警告

- ほ場の出入りや段差のあぜを乗り越えるときは、強度の十分あるアユミ板を使用してください。
- ほ場に対して、直角に出入りしてください。上り始めは、作業機を低くして重心を下げ、上りきると同時に作業機を上げてください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落のおそれがあります。
- 急な坂道を、重い作業機を装着して走行する場合は、フロントウエイトを装着して「前進」で出入りを行ってください。特に急な坂道の場合は、上るときは「後進」で、降りるときは「前進」で行ってください。守らないと転倒のおそれがあります。

❶ほ場に対して、直角に出入りしてください。

❷走行変速レバーを「1」速、アクセルレバーを「おそい」側にして、できるだけゆっくり行ってください。





❸急な坂道の場合は、フロントウエイトを装着して「前進」で出入りを行ってください。特に急な坂道の場合は、上るときは「後進」で、降りるときは「前進」位置で行ってください。

❹上り始めは、作業機を低くして重心を下げてください。

❺本機のクローラ全体があぜに上がると同時に作業機を上げてください。

4.作業に適した速度の選びかた

走行変速レバーを操作して、6段階の変速ができます。
車速表を参考にして、作業に適した速度段を選んでください。(車速は、エンジン定格回転の速度を示します。)

前後進レバー	走行変速レバー	車速 (km/hr)	作業	
			乾田	湿田
前進	1速	0.53	耕うん	移動
	2速	1.09	耕うん	移動
	3速	1.59	代かき	耕うん・代かき
	4速	2.03	代かき	耕うん・代かき
	5速	4.18	移動	
	6速	6.13	移動	
後進	1速	0.42	移動	
	2速	0.88		
	3速	1.28		
	4速	1.64		
	5速	3.39		
	6速	4.96		

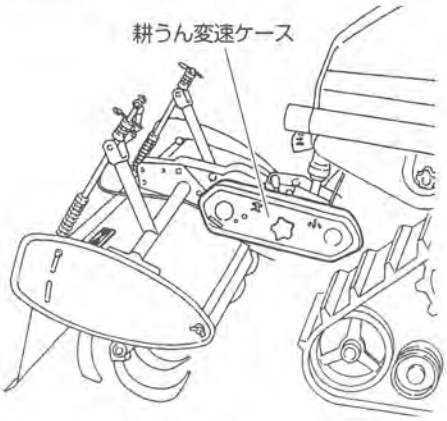
取扱いの注意

- けん引作業は、走行変速レバーを「1」速または「2」速で行い、「3」速以上は使用しないでください。
  守らないと、ほ場条件により、クラッチがすべり、故障の原因になります。

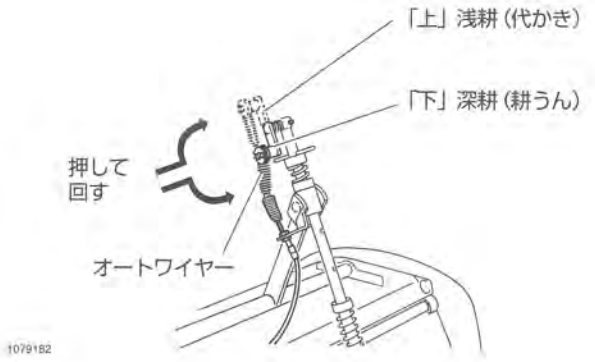
5.ロータリー耕うん作業のしかた

1.作業前の準備

❶土塊の大きさは、耕うん変速ケースの振り替えによって決めてください。(➔55・56ページ参照)

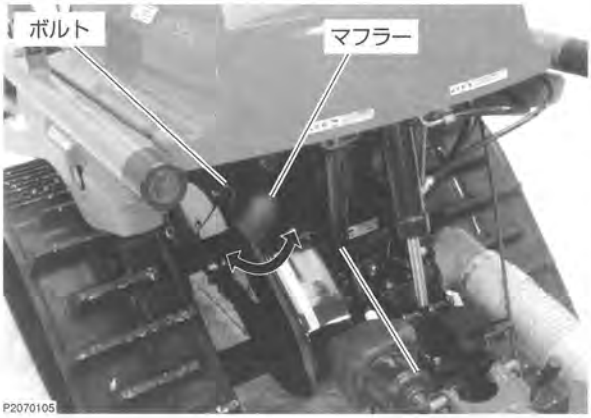


❷オートワイヤーの上下切替えと耕深調節レバーで耕深の調節を行ってください。





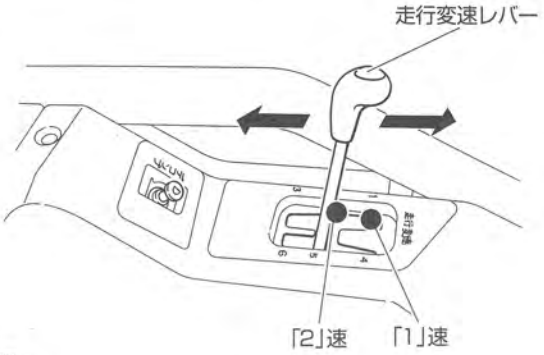
❸作物に排気ガスがかかるようなときは、マフラーの取付ボルトをゆるめて、取付角度の調節をしてください。



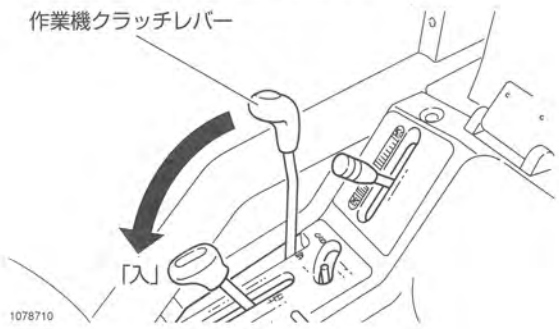
2.作業のしかた

❶エンジンを始動してください。
(➜41～43ページ参照)

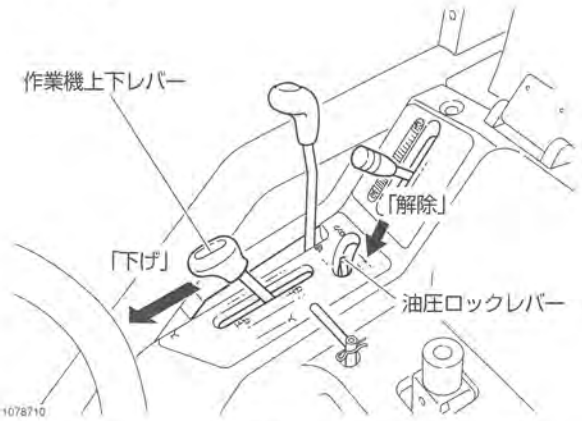
❷作業条件によって、58ページの車速表に従って、走行変速レバーを「1」速または「2」速にしてください。



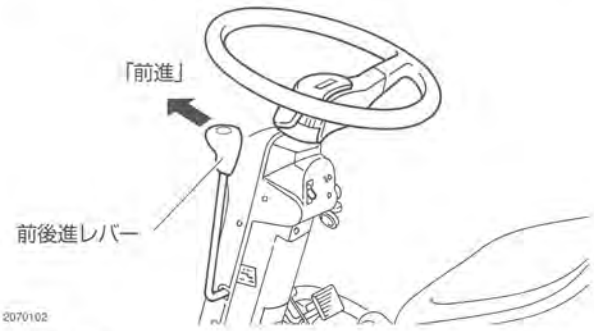
❸作業機クラッチレバーを「入」位置にしてください。ロータリーが回転します。



❹油圧ロックレバーを「解除」、作業機上下レバーを「下げ」位置にして、ロータリーを降ろしてください。



❺前後進レバーを「前進」側へいっぱいに倒して、ゆっくり発進してください。



参考

- 硬いほ場の場合は、一度に耕うんせずに2回に分けて耕うんしてください。
- 耕うん中は、車輪が耕うん済みの所に落ちないようにしてください。落ちると、ハンドルをとられ、直進しにくくなります。



取扱いの注意

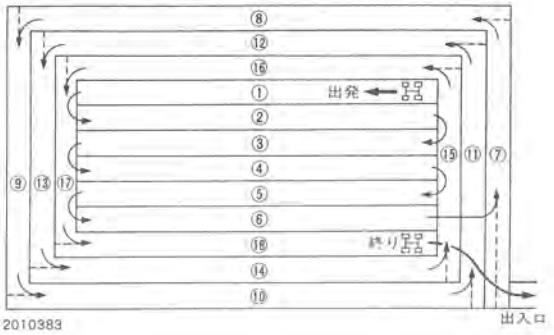
- **後進・乾田での旋回、および移動走行時は、必ずロータリーを上げてください。**

〈乾田の場合〉

隣接耕うんの順序

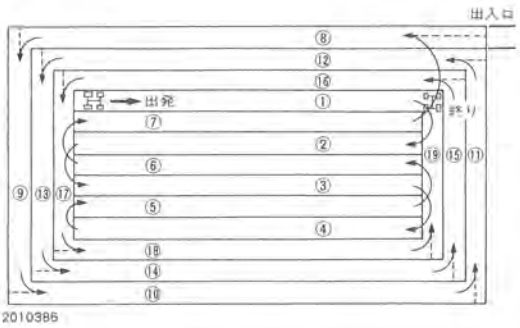
- 一般的なロータリー耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、一度耕うんした所をクローラで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、乗用耕うん機が最後に外へ出る場所によって決まります。

◀——— 進行方向　◀------ いったんバック



一うね置き耕うんの手順

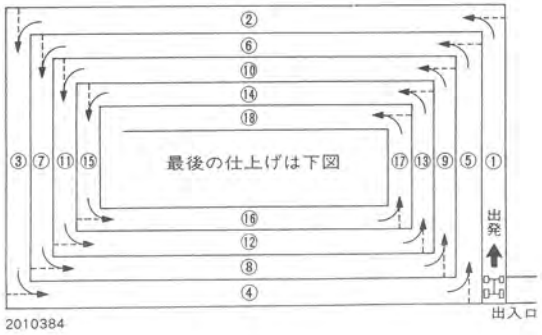
一うね置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



〈湿田の場合〉

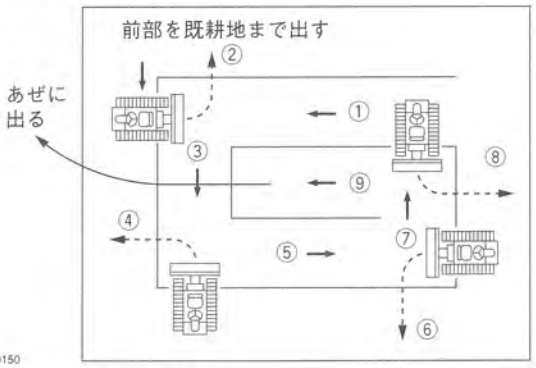
回り耕うんの順序

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- 乗用耕うん機が最後に出る場所は、あぜに近い所から出てください。



2010384

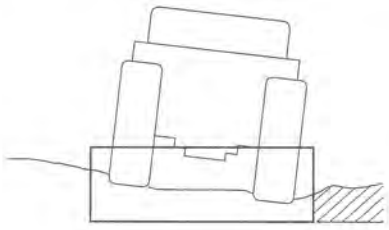
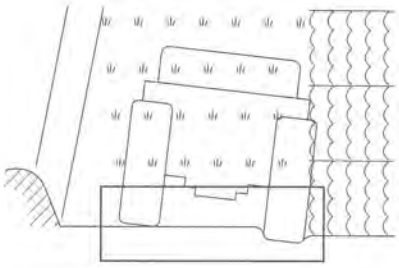
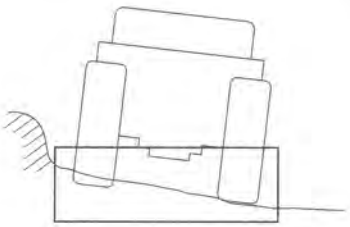
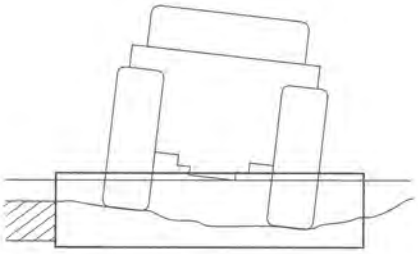
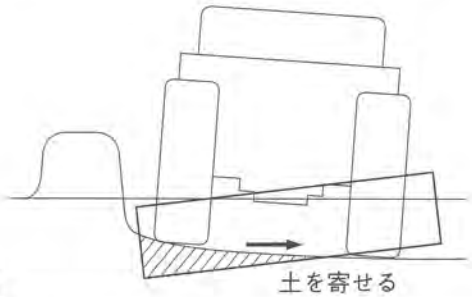
最後の仕上げ



1079150

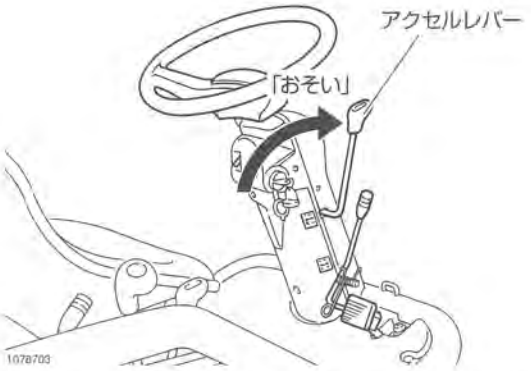
3.ジャストマチックの使用例（JAC 仕様のみ）

（➔36・37ページ参照）

作業機名と作業	ジャストマチックの作業例
ロータリーによる耕うん 均平に耕うんすることは、後作業である代かき作業が楽にできます。	自動 ほ場の凹凸や軟弱さとか、片輪が既耕地に落ちたり、耕うん機が傾いても、均平に耕うんでき、耕盤が安定する。  1079140
	手動 枕地の旋回あとの凹凸や掛けはじめと掛け終わりの不揃いで耕うん機が左右に揺れても、均平に耕うんできる。  1079141
	手動 あぜ際の土の盛りあがりで耕うん機が傾いても、均平に耕うんできるので、あぜ際いっぱいまで同じ耕深に耕うんでき、ほ場全体が均平に仕上がる。  1079142
ロータリー・代かきハローによる代かき 精度の高い田植作業ができるよう代かき作業を行うのですから、ほ場全体を均平に仕上げることがポイントです。 また、ほ場が均平であれば、収穫機の走行も安定し、能率的な収穫作業が可能となります。	自動　耕盤に凹凸があっても表土が均平に仕上がる。  1079143
	手動　あぜ際の土の盛りあがりを均平にするため、手動でロータリーや代かきハローをあぜ際に傾けて土寄せができます。  土を寄せる 1079144

6.ほ場での旋回のしかた

❶アクセルレバーを「おそい」側にして、減速してください



❷作業機上下レバーを「上げ」位置にして、作業機を上げてください。



❸ハンドルを回して旋回してください。

乾田の場合

ハンドルをいっぱいまで回して、小さい旋回をしてください。

湿田の場合

ハンドルをいっぱいまで回さず、ゆるやかに旋回してください。

参考

- 湿田でクローラがスリップして前進できなくなった場合は、後進で脱出してください。

取扱いの注意

- 後進や乾田での旋回、および移動走行時は、必ずロータリーを上げてください。
- 湿田では、小回りをしないでください。小回りすると、スリップして走行できなくなる場合があります。

❹旋回が終了し、次行程の作業に入るときは、アクセルレバーを「はやい」側にして、エンジン回転を上げて、作業機上下レバーを「下げ」位置にして、作業機を降ろしてください。

7.作業機の取り扱いに関する注意事項

⚠警告

- 乗用耕うん機を移動して作業機を着脱するときは、乗用耕うん機の周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
  守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントにフロントウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、エンジンを停止し、かつ、作業機クラッチレバーが「切」位置にあることを確認したうえで行ってください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- フロントウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のフロントウエイトを使用してください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
  守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

- PTO軸を使用しないときは、PTO軸の安全カバーを必ず取り付けてください。守らないと、巻き込まれて、ケガを負うおそれがあります。

9章 ロータリーについて

1.耕うん爪の取り付けかた

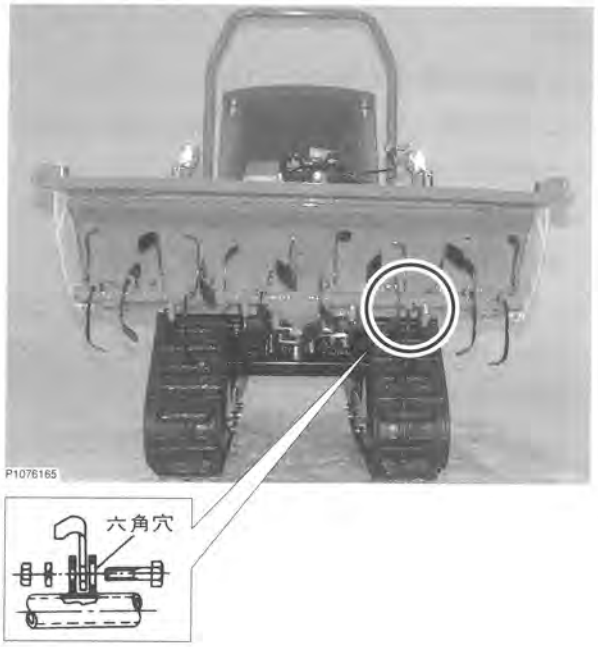
⚠警告

- 爪を取り付けるときは平坦で固い場所を選び、エンジンを停止し、クローラには車止めをして機体が動かないようにしてください。
- ロータリーの落下防止のために、油圧ロックレバーを「ロック」位置にして、油圧をストップさせてください。

耕うん爪の取り付けかた

❶平面耕の場合は、爪の取り付け方向はブラケットの六角穴と逆方向に曲がりが来るように取り付けてください。

❷ボルトはメガネレンチ14×17で、確実に固定してください。



爪配列

爪の配列は、作業に合わせてつぎの通り使いわけることができます。作業内容に合わせて選択してください。(クロス部およびストレートの内爪軸部爪配列は、爪ホルダー刻印に合わせてください。)

〈爪の取り付けかた〉

❶クロス部の直爪は、爪座のSL・RLの打刻部に取り付けてください。

❷平面耕の場合は、爪取り付け方向を爪座の六角穴と逆方向に曲がりが来るようにしてください。

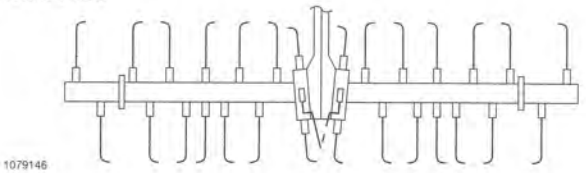
❸爪は、ボルトで確実に固定してください。

平面耕（標準）



一般水田・畑・耕起作業、水田代かき作業、畑の細土・均平作業などに使用できます。

MAR120

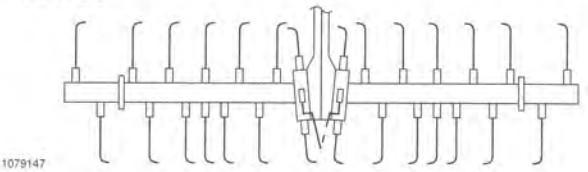


内盛耕



湿田耕起作業、幅広畦立時に使用できます。また、溝をまたいでの畦くずし作業もできます。

MAR120



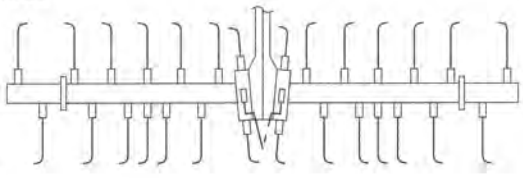
外盛耕



1029011

畦くずし、畦立作業に使用できます。

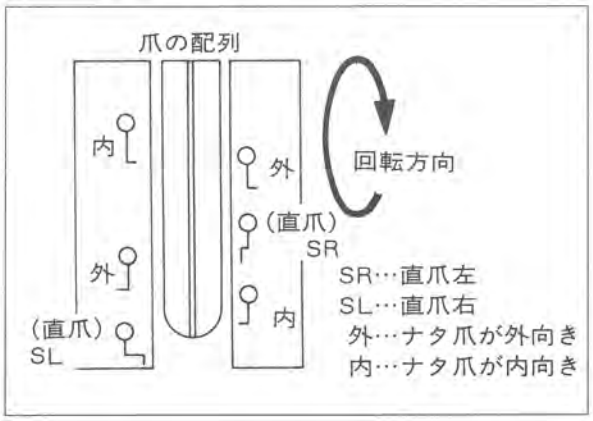
MAR120



1079149

〈MAR120〉

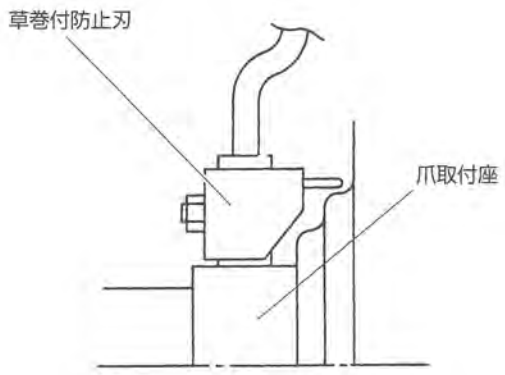
クロス部は全て同じです。



クロスセンター

草巻付防止刃は、クロス爪軸の直爪と共締めしてください。

※草巻付防止刃と耕うんケースのスキマは少ない方が効果的です。



1077838

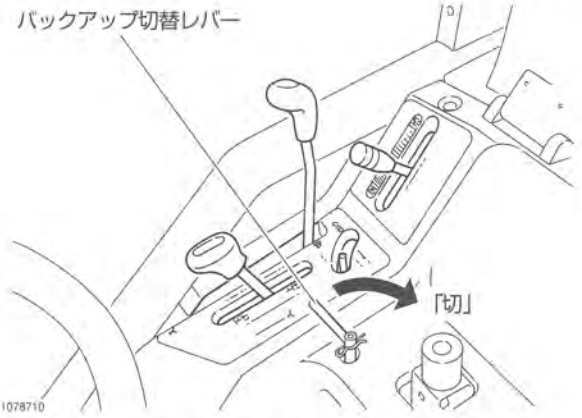
2.ロータリーの取り付け・取り外しかた

⚠警告

- 作業機の取り付け・取り外しをするときは、バックアップ切替レバーを「切」位置にしてください。守らないと、何らかの原因でリヤヒッチが上がったときに、ケガをするおそれがあります。

ロータリーの取り外しかた

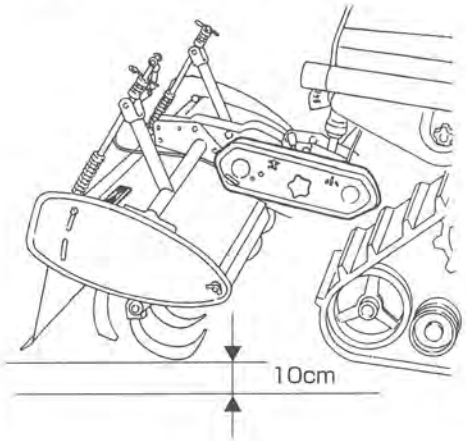
❶バックアップ切替レバーを「切」位置にしてください。



1078710

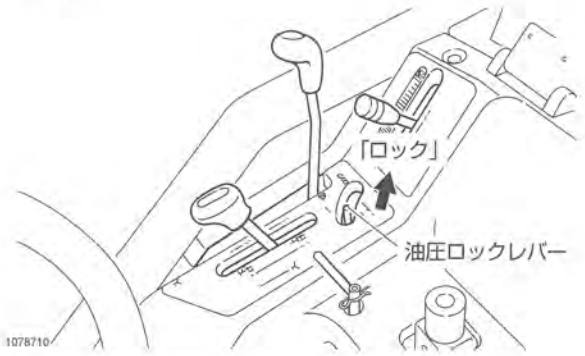
❷エンジンを始動してください。
(➔41～43ページ参照)

❸作業機上下レバーで、ロータリーの爪を地面より10cm程度上げてください。



1079178

❹油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。

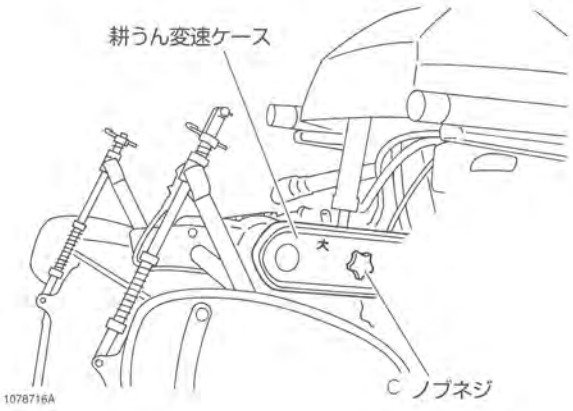


❺エンジンを停止してください。
(➔44ページ参照)

❻耕うん変速ケースを取り外します。

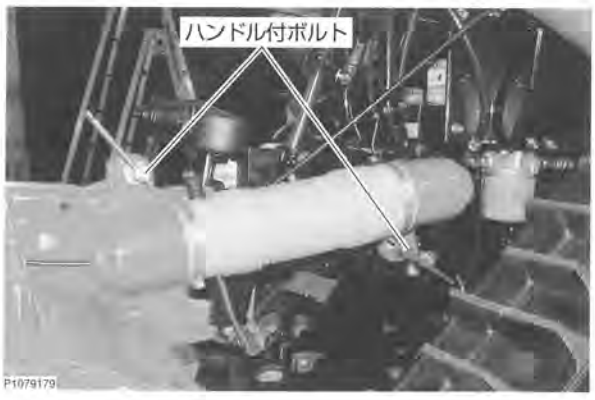
〈JAC無し〉

耕うん変速ケースのノブネジを外して、耕うん変速ケースを取り外してください。



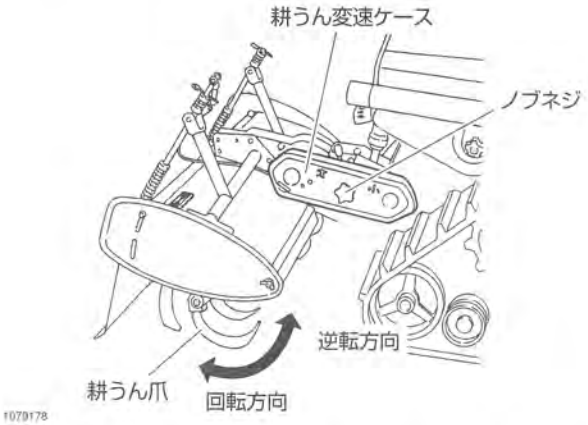
〈JAC仕様〉

耕うん変速ケースのハンドル付きボルト(2ヶ所)を外して耕うん変速ケースを取り外してください。



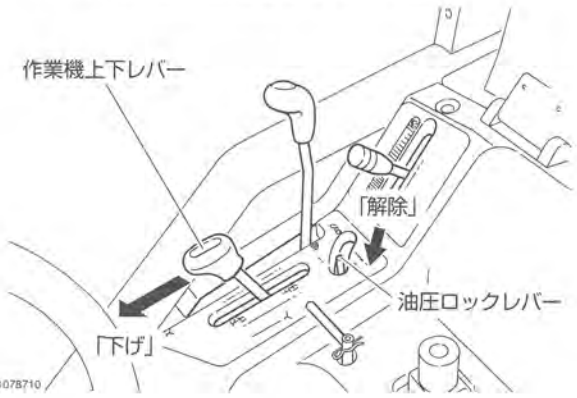
参考

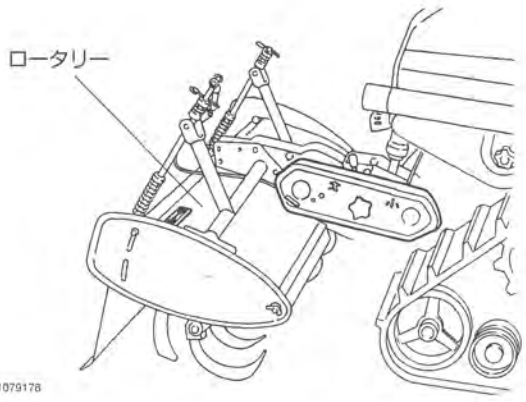
- 耕うん変速ケースが取り外しにくいときは、以下の要領で行ってください。
  1)作業機クラッチレバーを「切」位置にする。
  2)耕うん爪を手で、回転方向にガタガタと動かす。
  3)次に、逆転方向に少し回してから、耕うん変速ケースを取り外す。



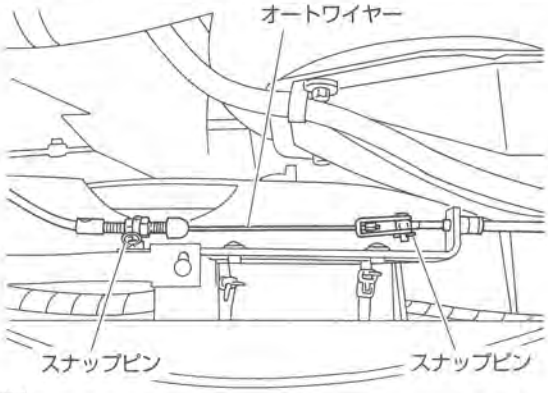
❼油圧ロックレバーを「解除」位置にしてください。

❽作業機上下レバーを「下げ」位置にして、ロータリーの爪を地面に接地させてください。



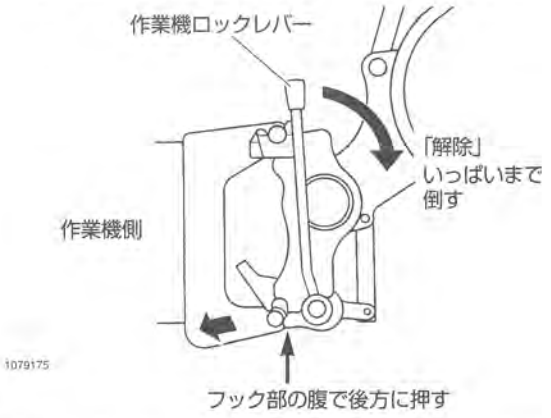


❾ボンネットを開けて、本機側のオートワイヤーのスナップピン（2本）を外します。



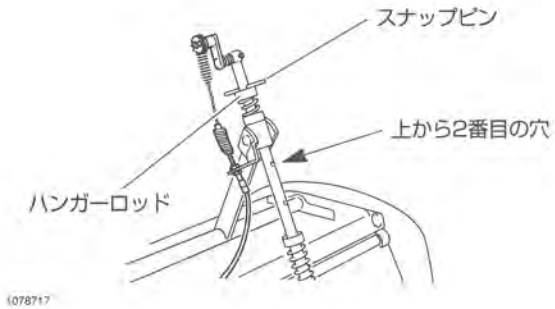
1078719

❿作業機ロックレバーを「解除」位置にして、フック部の腹で作業機を後方へ押してください。



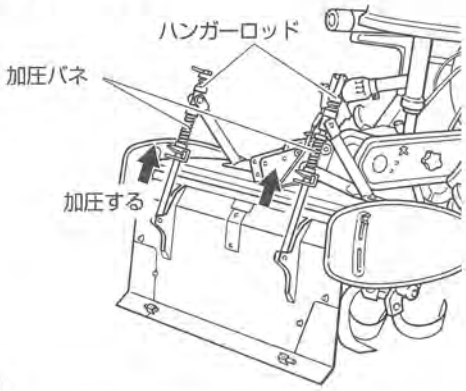
1079175

⓫ハンガーロッドのスナップピンを、上から2番目の穴に差し替えて、リヤカバーを上げてください。



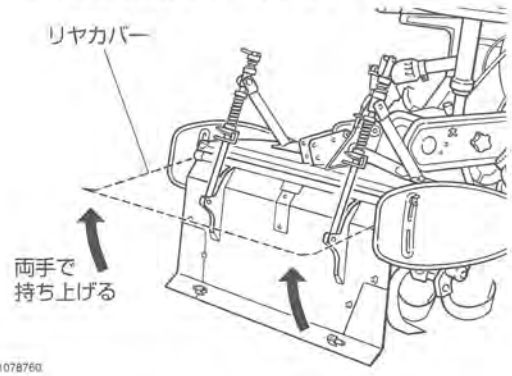
1078717

⓬ハンガーロッド（左右）の加圧バネを、加圧状態にしてください。



1078749

⓭リヤカバーを、両手で持ち上げてください。リヤヒッチが自重で下がります。

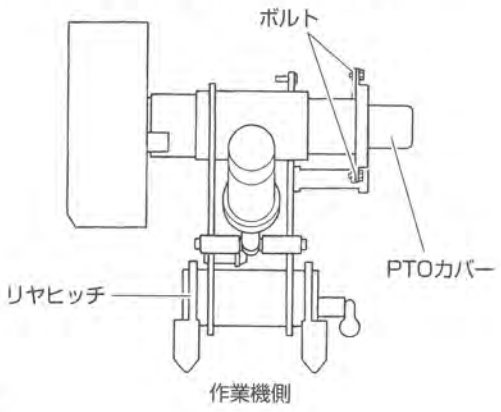


1078760

⓮足でリヤカバーを押さえて、ハンガーロッド（左右）を両手で持ち上げて、リヤヒッチからロータリーを外してください。


1079168

⓯本機側のPTO駆動軸に、標準付属品のPTOカバーをボルト2本で取り付けてください。

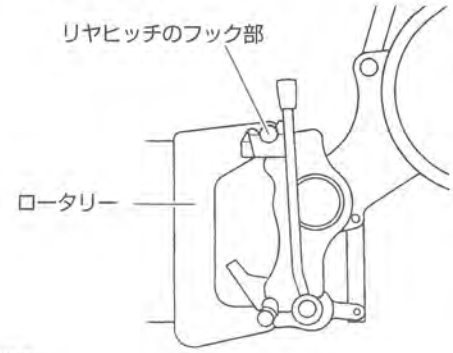


1078173

ロータリーの取り付けかた

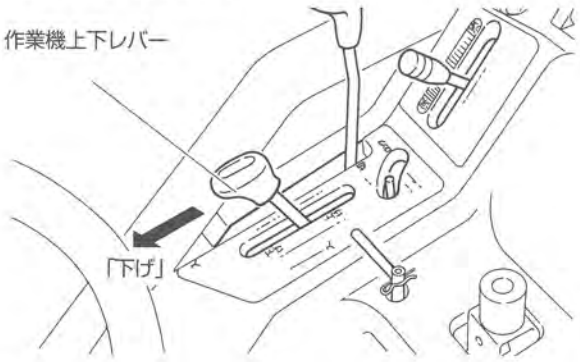
❶ロータリーを取り付けるときは、以下のことに注意して、取り外しかたの逆の手順で行ってください。

- リヤヒッチのフック部をロータリーに確実に掛けてください。

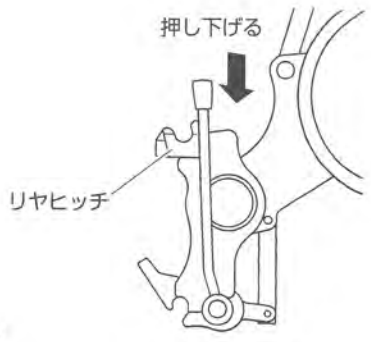


1078721

- リヤヒッチが上がっているときは、作業機上下レバーを「下げ」位置にして、リヤヒッチを押し下げてください。

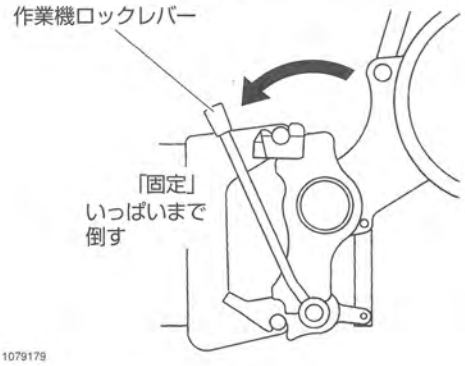


1078710



1079176

● 作業機ロックレバーを確実に「固定」位置まで
に倒してください。



取扱いの注意

● 耕うん変速ケースを取り付けるときは、本機側の駆動軸に先に差し込み、ロータリー側の駆動軸に入れてください。入りにくいときは、ロータリーの爪を手で少し回してください。

10章 作業後の手入れと格納について

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

⚠警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- バッテリ端子を取り付けるときは、⊕側を先に取り付け、取り外すときは、⊖側から取り外してください。ショートしてヤケドや火災の原因になります。

⚠注意

- 点検・整備するときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1.手入れのしかた

その日の内に本機を水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ってください。
回転部や摺動部に注油およびグリスアップをしてください。(➜76・77ページ参照)

取扱いの注意

- 水洗いをするときは、エンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。
- 水洗い後は水分をよくふき取り、回転部や摺動部に、注油およびグリスアップを必ず行ってください。行わないと、サビ付きや故障の原因になります。

2.格納のしかた

⚠警告

- 格納するときは、バッテリを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

- 本機は、直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。
- 本機からウエイトなどを取り外し、クローラの下には板を敷いて、作業機は地面に降ろすか、取り外してください。
- 外部のサビやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。
- エアクリーナー・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

3.長期間使用しない場合のお手入れ

燃料について

燃料タンク内のサビを防ぐために、燃料は満タンにしておいてください。



バッテリの保管

長期間使用しない場合は、バッテリを本機から取り外し、直射日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。また、バッテリは使用しなくても自然放電しますので、2ヶ月に1度は補充電を行ってください。(➔89ページ参照)



⚠警告

- **バッテリ端子を取り付けるときは、⊕側を先に取り付け、取り外すときは、⊖側から取り外してください。ショートしてヤケドや火災の原因になります。**



11章 点検・整備のしかた

⚠警告

- 点検・整備をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で、クローラに車止めをして行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備をするときは、エンジンおよび回転部の停止を確認してから行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- オイル交換や点検・整備をするときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。火災を起こすおそれがあります。
- バッテリ端子を取り付けるときは、⊕側を先に取り付け、取り外すときは、⊖側から取り外してください。ショートしてヤケドや火災の原因になります。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを取り外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

取扱いの注意

- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

1.定期点検・整備の時期について

定期点検・整備は、シーズンオフに行いますとシーズン中に機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。
機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプやゴムホース類は、2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、機械を常に最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

2.定期点検一覧表

実　施　項　目	内　　容	使用前	使用中	格納
エンジンクランクケース	量・汚れ点検(1.6ℓ) 50時間または1シーズンごとに交換	○	補給	○
ミッションケース	量・汚れ点検（6.5ℓ）	○		○
ロータリーケース	量・汚れ点検（0.7ℓ）200時間ごとに交換	○		○
各摺動部注油	エンジンオイル・ギヤオイル	○	○	○
燃料コシ器点検	カップ洗浄	○		○
エアクリーナー	汚れ点検	○	補給	○
電気配線点検	点検し異常があれば交換	○		○
燃料パイプおよび結合部の点検	パイプは2年ごとに交換	○		○
油圧装置の点検	オイルのもれ点検	○		○
ステアリング各部締付点検	増締	○		○
各ワイヤの点検	遊び量	○		○
重要ボルトナット点検	増締	○		○

3.給油・給脂一覧表

〈本機関係〉

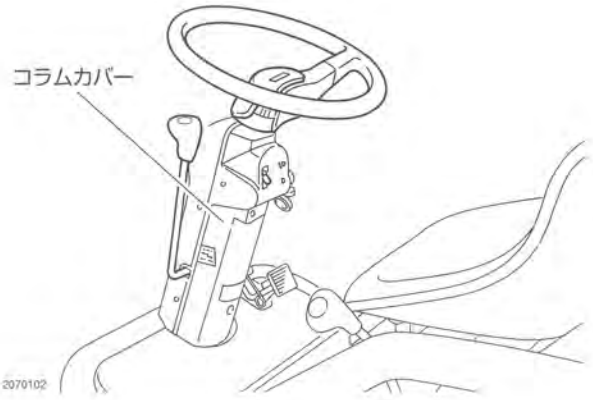
給油・給脂箇所	容　　量	種　　類	参照ページ
燃料タンク	9.0ℓ	ディーゼル軽油（JIS 2号）	77・78
エンジンクランクケース	1.6ℓ	ディーゼルエンジン用SAE10W-30相当品（新SAE、CC級以上）	78
ミッションケース	6.5ℓ	トランスミッションフルードTF-300	79

〈ロータリー関係〉

給油・給脂箇所	容　　量	種　　類	参照ページ
ロータリーケース	0.7ℓ	ギヤオイルEP#90	80

4.コラムカバーの取り付け・取り外しかた

取付ネジ(7本)を外し、コラムカバーを前後に取り外します。



5.ボンネットの開閉、および取り付け・取り外しかた

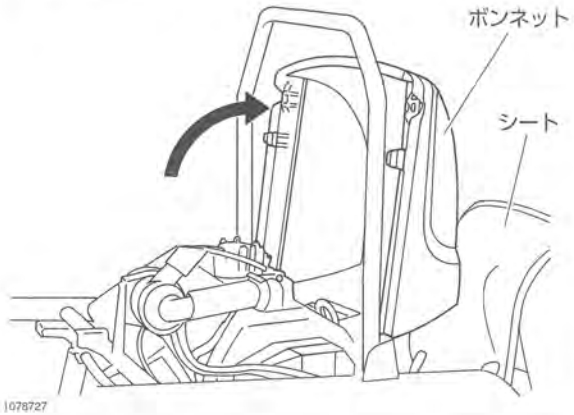
⚠危険

- エンジン回転中や、エンジンが熱い間はボンネットを開けないでください。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故を起こしたり、ヤケドを負うおそれがあります。

ボンネットの開閉のしかた

❶ドライバーシートを前方に倒してください。

❷ボンネットの後側中央部を持ち上げて、シートに当たるまで開いてください。



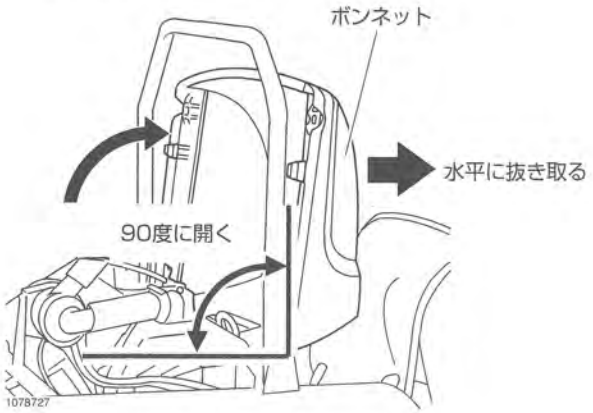
❸ボンネットを閉めるときは、逆の手順で行ってください。

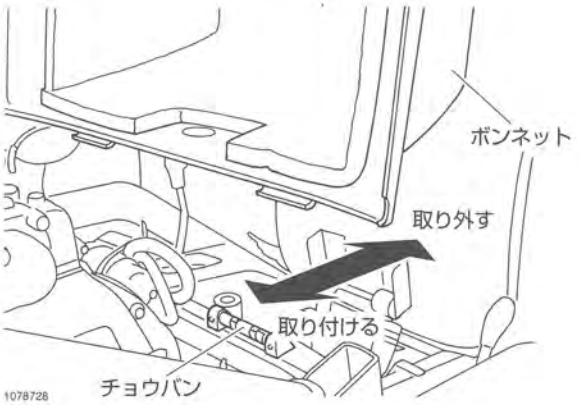
取扱いの注意

- ボンネットを閉めるときは、ロック金具に完全に入っていることを確認してください。

ボンネットの取り外し・取り付けかた

❶点検・整備を行うときは、ボンネットを90度に開いて、チョウバン（2か所）から水平に抜き取ってください。





取扱いの注意

- **ボンネットを取り外すときは、必ず90度に開いて、ボンネット全体を前方に水平に抜き取ってください。水平に抜き取らないと、ボンネットが破損します。**

❷ボンネットを取り付けるときは、ボンネットを90度に立ち上げて、チョウバンにはめ込んでください。

取扱いの注意

- **ボンネットを取り付けるときは、90度に立ち上げて、水平に押し込まないと、取り付けることができません。**

6.サイドカバーの取り付け・取り外しかた

❶ボンネットを開けてください。

❷ノブボルト（2か所）をゆるめて、サイドカバーを矢印方向に取り外してください。



取扱いの注意

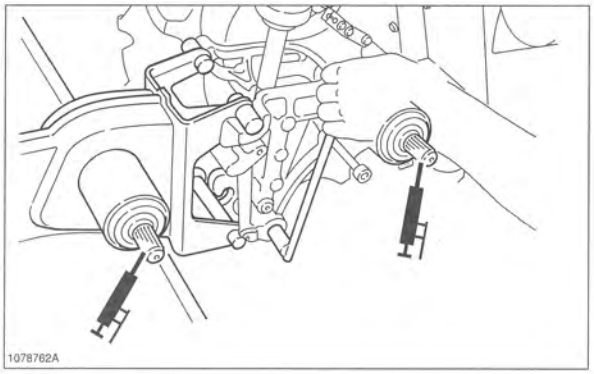
- **ノブボルトを紛失しないようにしてください。**

7.各部の注油・給脂のしかた

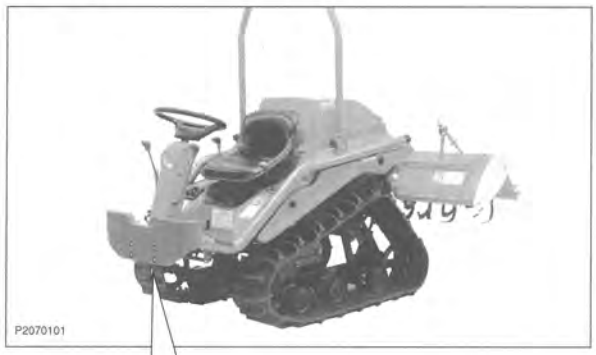
〈凡例〉

注油位置　　グリス位置

PTO軸

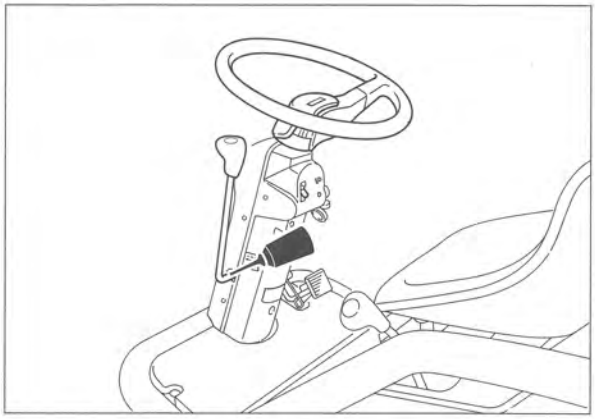


ハンドル支点部

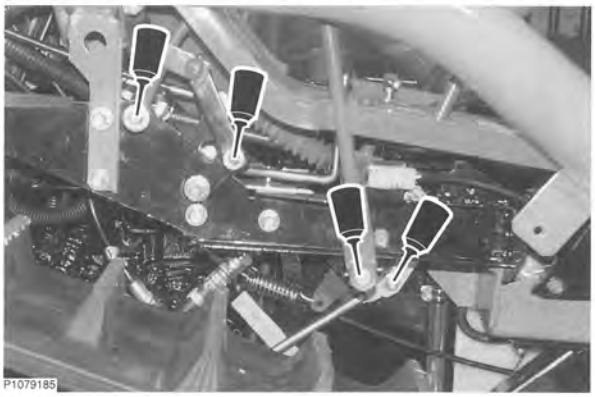




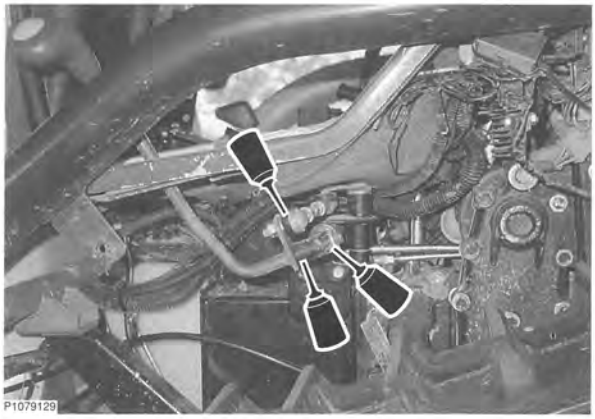
前後進レバー支点



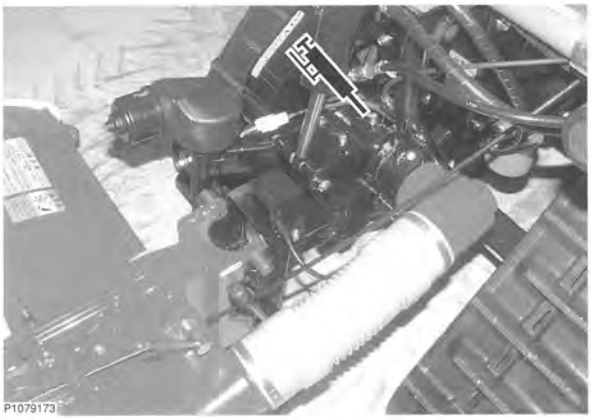
作業機クラッチレバー支点・
作業機上下レバー支点・耕深調節レバー支点



走行変速レバー支点

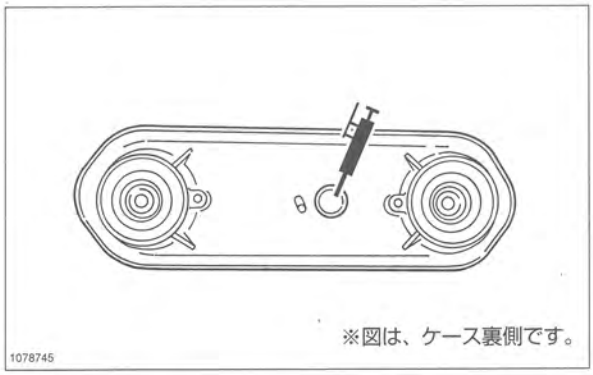


ヒッチ支点回動部



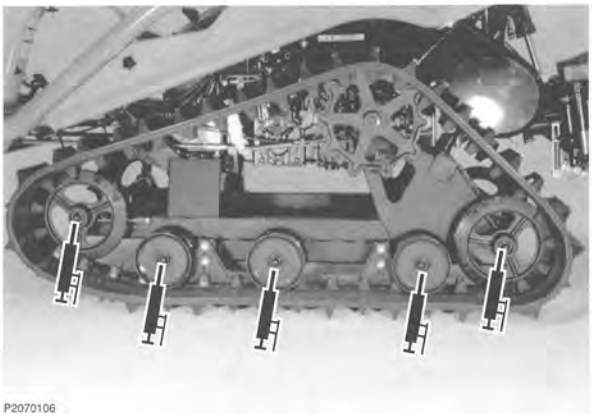
P1079173

耕うん変速ケース



1078745

トラックローラ



P2070106

8.燃料の点検と補給のしかた

⚠危険

燃料を給油するときは、以下のことを必ず守ってください。守らないと火災や、ヤケドの原因となります。

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。

燃料の残量点検のしかた

燃料ゲージで、燃料の残量を調べてください。



P1079187

燃料の補給のしかた

給油口はシートの下にあります。
燃料キャップを取り外し、補給してください。



取扱いの注意

- 給油するときは、ゴミが入らないようフィルタネットを外さないでください。フィルタネットにゴミが詰まったときは、ゴミを取り除いてください。
- 給油するときはホースなどを使用しこぼさないようにしてください。

9.各部オイルの点検・補給・交換のしかた

⚠危険

- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油はしないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

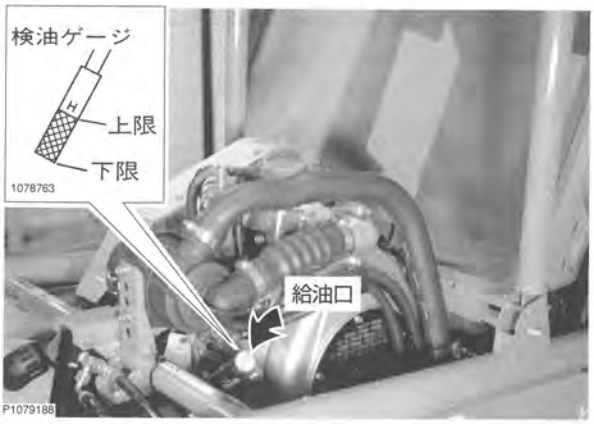
取扱いの注意

- 排油のときは、オイルが少しあたたかいときに行ってください。
- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

エンジンオイル

〈点検のしかた〉

❶ボンネットを開けてください。



❷給油口兼検油ゲージを外し、「上限」と「下限」の間（規定量）にオイルがあるか点検してください。

さらに、油もれのないことも調べてください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量まで補給してください。

〈交換のしかた〉

❶ドレンプラグの下に容器を置いて、古いオイルを受けてください。

❷給油口を外し、ドレンプラグを取り外して、古いオイルを抜いてください。

❸オイルを抜いた後、ドレンプラグを取り付けてください。

❹給油は、給油口から新しいエンジンオイルを規定量まで補給してください。

❺給油口を取り付けてください。



取扱いの注意

- **オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。**

ミッションオイル

〈点検のしかた〉

❶ドライバーシートを前方に倒してください。

❷検油ゲージを外し、「上限」と「下限」の間（規定量）にオイルがあるか点検してください。
さらに、油もれのないことも調べてください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量まで補給してください。



〈交換のしかた〉

❶ドレンプラグの下に容器を置いて、古いオイルを受けてください。

❷給油口を外し、ドレンプラグを取り外して、古いオイルを抜いてください。

❸オイルを抜いた後、ドレンプラグを取り付けてください。

❹給油は、給油口から新しいオイルを規定量まで補給してください。

❺給油口を取り付けてください。

参考

- ミッションオイルの交換と同時に、HSTフィルタの交換とサクションストレーナの洗浄も行ってください。(➜81ページ参照)



ロータリーケースオイル

〈点検のしかた〉

❶作業機上下レバーを「下げ」位置にして、ロータリーを地面に接地してください。

❷検油ボルトを外して、取付穴からオイルがわずかに出ることを点検してください。
さらに、油もれのないことも調べてください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から検油ボルトの取付穴まで補給してください。



〈交換のしかた〉

❶ドレンプラグの下に容器を置いて、古いオイルを受けてください。

❷給油口を外し、ドレンプラグを取り外して、古いオイルを抜いてください。

❸オイルを抜いた後、ドレンプラグを取り付けてください。

❹給油は検油ボルトを外し、給油口から新しいオイルを検油ボルトの取付穴まで補給してください。

❺検油ボルトと給油口を取り付けてください。



10.燃料コシ器エレメントの掃除・交換のしかた

⚠危険

- **燃料コックが「開」になったままでコシ器を外すと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「閉」にして行ってください。**

燃料の中に混入したゴミ・チリが燃料コシ器に沈殿しますので、コシ器を外してゴミを抜き取ってください。

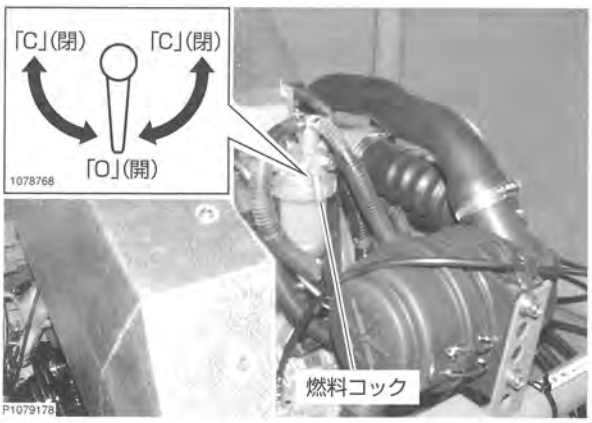
〈掃除のしかた〉

❶燃料コックを「C」(閉) 位置にしてください。

❷カップを外し、水・ゴミを取り除いてください。

❸コシ器の洗浄が終わったら、燃料コックを「O」(開) 位置にして、燃料を出しながらコシ器内に空気が入らないように取り付けてください。

❹コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換してください。

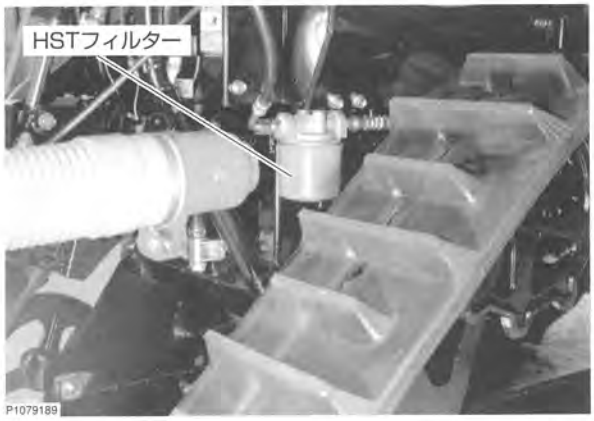


11.HSTフィルターの交換のしかた

HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。ミッションオイル交換時には、HSTフィルターも同時に交換してください。

〈交換のしかた〉

● カートリッジを左側に回して外します。



※市販の「オイルフィルターレンチ80」を使用すれば簡単に行えます。



● 新しいHSTフィルターの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、HSTフィルターを取付部に取り付けます。

12.サクションストレーナの洗浄のしかた

サクションストレーナは、ミッションオイルの中に含まれる雑物が付着しますので、ミッションケースから取り外して、洗浄してください。

洗浄は、ミッションオイルの交換と同時に行ってください。

〈洗浄のしかた〉

❶ミッションオイルを排出してください。
(➔79ページ参照)

❷サクションストレーナのカバー取付ボルト2本を外してください。

❸カバーを外し中からサクションストレーナを取り外してください。(スプリング、Oリングも同時に取り外してください。)

取扱いの注意

- **ミッションケース内に、ゴミが入らないように防護してください。**
- **スプリング、Oリングを紛失しないようにしてください。**

❹フィルタを洗浄してください。



取扱いの注意

- **洗浄には、指定オイルを使用してください。**

13.エアクリーナーの掃除のしかた

⚠注意

- **エンジンを停止して行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。**

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、エンジンをいつも快調にする装置です。定期的に掃除してください。

〈掃除のしかた〉

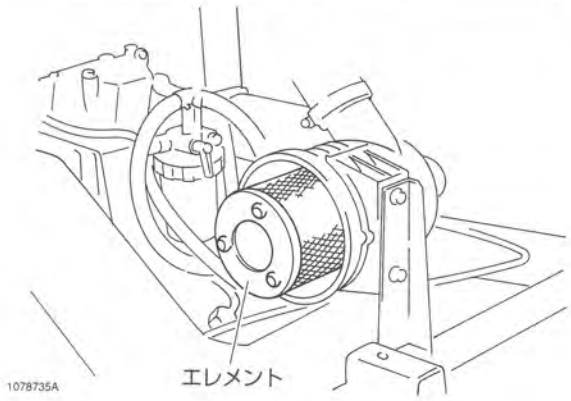
❶ボンネットを開けてください。

❷カバーのクランプ（2か所）を解除し、カバーを外してください。

❸エレメントは、内側から空気（7kg/cm²以下）を吹き付けるか、中性洗剤水溶液でザブ洗いしてください。

❹掃除が終わったら、逆の手順で取り付けてください。





取扱いの注意

- 生乾きのエレメントは使用しないでください。エンジン不調の原因になります。
- ろ紙を傷つけないように、ゆっくりザブ洗いしてください。

14.ブレーキペダルの点検・調節のしかた

⚠警告

- ブレーキのききが悪くなると、転落・転倒事故の原因になります。必ず作業前に点検してください。

ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルの遊び量を30～40mmに調節してください。

〈調節のしかた〉

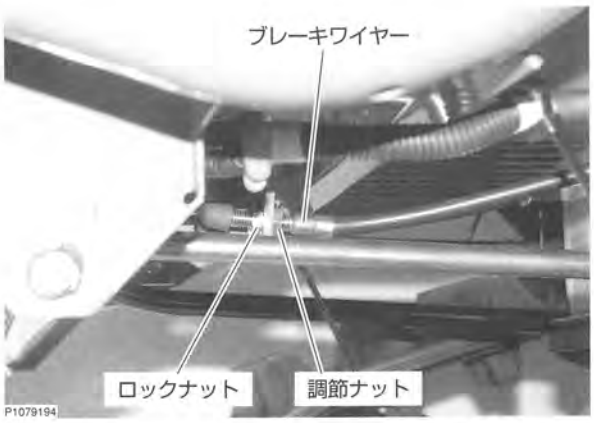
❶機体下方のブレーキワイヤーのロックナットをゆるめてください。

❷調節ナットを回して、ブレーキペダルの遊び量を調節してください。

❸ロックナットで固定してください。



1068133A-2



P1079194

15.ベルトの点検・調節のしかた

⚠注意

- エンジンが十分冷えた状態で行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。思わぬ傷害事故の原因になります。

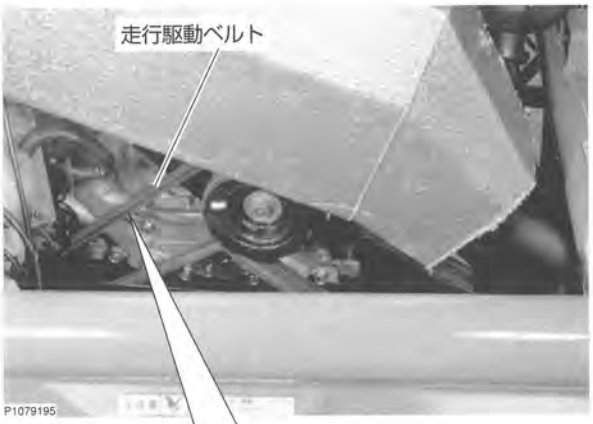
走行駆動ベルト

〈点検のしかた〉

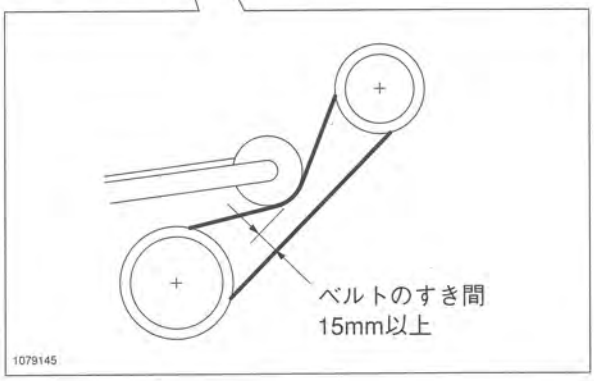
❶ベルトのすき間が15mm以上ありますか。

❷ベルトの傷や摩耗がありませんか。

すき間が少なかったり、傷や摩耗が大きい場合はベルトを交換してください。



P1079195



1079145

PTO駆動ベルト

⚠注意

- **点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、思わぬ傷害事故の原因になります。**

作業機クラッチレバーを「入」位置に操作するときレバー遊びを130～140mmに調節してください。このとき、ベルトのたわみ量は10～15mmであることを確認してください。

〈点検のしかた〉

❶ロータリーを上げて油圧ロックレバーを「ロック」位置にして、ベルトカバーをボルト（4本）を外して、取り外してください。





❷ベルトのたわみ量を点検してください。



〈調節のしかた〉

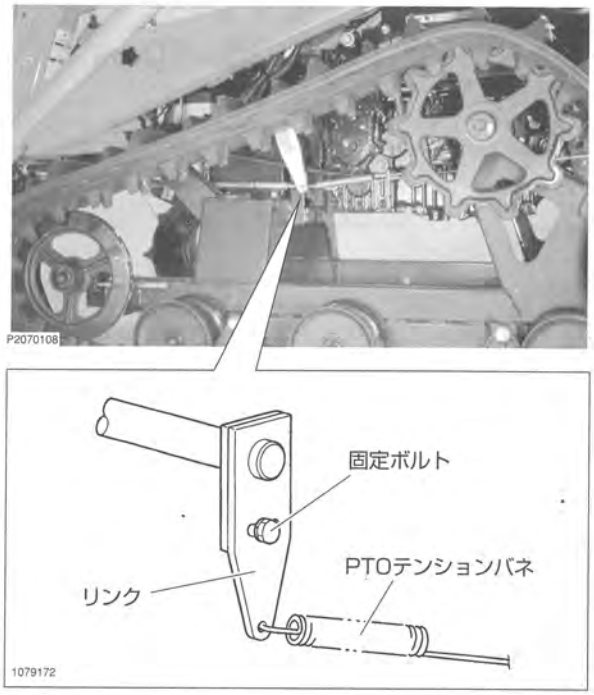
❶機体左側のサイドカバーを取り外してください。

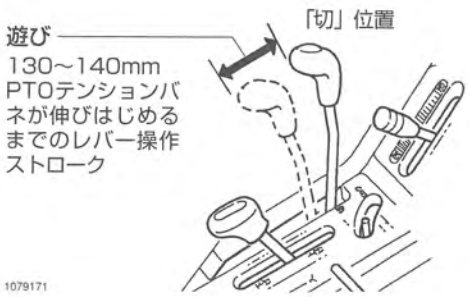


❷作業機クラッチレバーリンク部の固定ボルト（1本）をゆるめてください。

❸リンクを回動して、調節してください。

❹固定ボルト（1本）で固定してください。





16.オートワイヤーの調節・確認のしかた

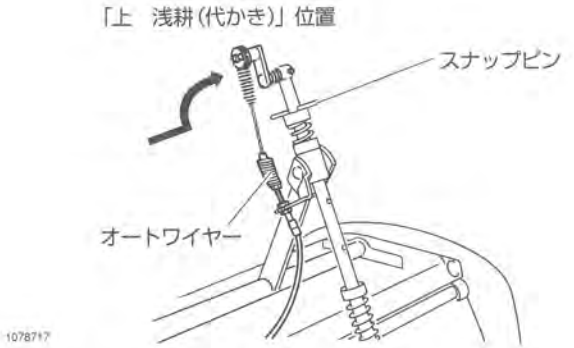
⚠警告

- **エンジンを停止して行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。**

〈調節のしかた〉

❶左右のハンガーロッドのスナップピンを、一番上の穴に差し込み、リヤカバーを下げてください。

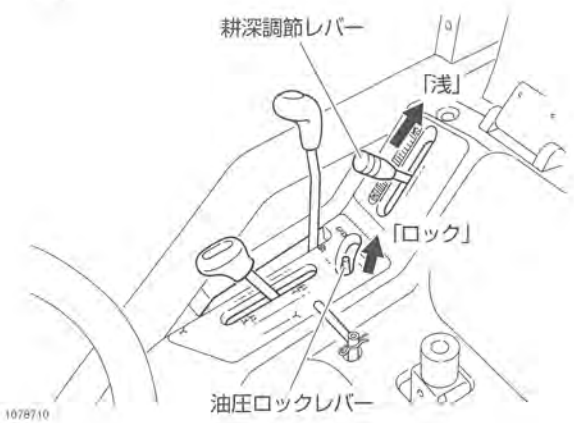
❷オートワイヤーを「上　浅耕（代かき）」位置にしてください。



❸エンジンを始動してください。
（➔41～43ページ参照）

❹耕深調節レバーを「浅」位置にし、作業機上下レバーでロータリーを地面から4～5cm程度上げてください。

❺油圧ロックレバーを「ロック」位置にしてください。

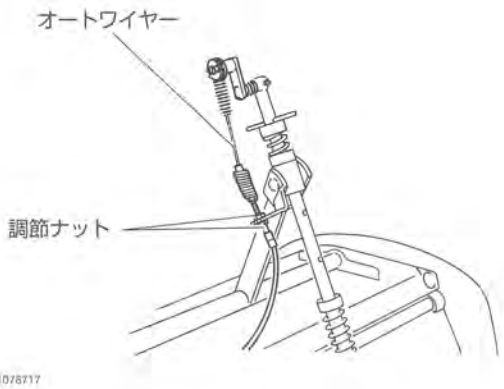


❻エンジンを停止してください。（➔44ページ参照）

❼オートワイヤーの調節ナットをゆるめてください。

❽調節ナットで、オートワイヤーをたるまず・引かずの状態に調節してください。

❾調節ナットで固定してください。



〈確認のしかた〉

⚠警告

- **作業機クラッチレバーが「切」位置になっているか確認してください。作業機が動き出し、傷害事故の原因になります。**

❶エンジンを始動してください。

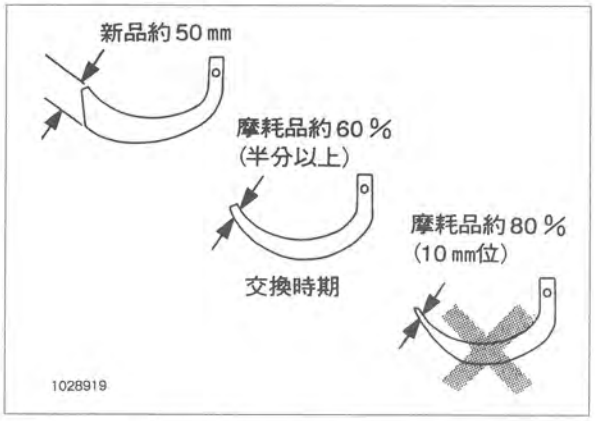
❷油圧ロックレバーを「解除」位置にしてください。

❸作業機上下レバーを「下げ」位置にし、そのとき耕深調節レバーを「浅」位置にしてもロータリーが上がらず、手でリヤカバーを少し持ち上げると自動的にロータリーが上がり、手を離すとロータリーが下降すると調節は完了です。

❹エンジンを停止してください。

17.爪の交換時期について

摩耗量が約半分を越えたら交換時期です。
曲がったり、折れたりしてからでは遅すぎます。効率の良い耕うん作業をするために、耕うん爪は早めに取り替えてください。



※爪の取り付けかたは、64ページの「1.耕うん爪の取り付けかた」を参照してください。

18.ロータリーのボルトの締め付け

⚠警告

- 平坦で固い場所を選び、本機のエンジンを停止し、クローラに車止めをして機体が動かないようにしてください。
- ロータリーの落下防止のために、油圧ロックレバーを「ロック」位置にして油圧をストップさせてください。守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

ロータリー各部ボルト・ナットなどを点検し、ゆるんでいるところは締め付けてください。



19.バッテリの点検・整備のしかた

⚠危険

- バッテリを取り扱うときは、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは、可燃性のガスが出ているため、爆発のおそれがあります。また燃料に引火するおそれがあります。
- バッテリーは液面が LOWER（最低液面積）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

⚠警告

- バッテリの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときには、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一眼に入ったときは、すぐ流水で十分洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリ端子を取り付けるときは、⊕側を先に取り付け、取り外すときは、⊖側から取り外してください。ショートしてヤケドや火災の原因になります。

取扱いの注意

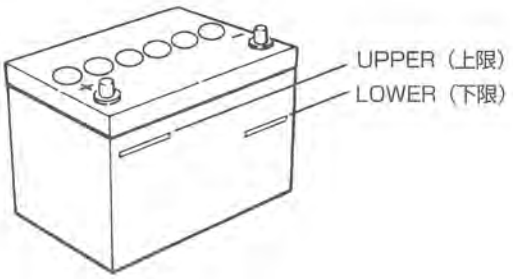
- バッテリ各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、本機の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。

指定バッテリ	部品コードNo.
SY70-S4	SY70-S4

- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

バッテリ液量の点検・補給のしかた

❶ドライバーシートを前方に倒してください。
❷ドライバーシートの支点ピンを外してドライバーシートを取り外してください。
❸シートブラケットのノブネジを外して、シートブラケットを後方へ倒してください。
❹ビニールシートを開いてください。
❺各槽のバッテリ液が上限と下限のライン間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。
※バッテリ液は、常に規定量を保ってください。



A2037537

取扱いの注意

- バッテリ各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、本機の金属部を腐蝕させます。
- バッテリ端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

バッテリの取り外しかた

❶ドライバーシートを前方に倒してください。
❷ドライバーシートの支点ピンを外してドライバーシートを取り外してください。
❸シートブラケットのノブネジを外して、シートブラケットを後方へ倒してください。
❹ビニールシートを開いてください。
❺固定ボルト（2か所）を外してバッテリ取付金具を取り外してください。
❻バッテリを手前に取り外してください。



補充電のしかた

液口栓とアース側のターミナルを外し、バッテリの⊕を充電器の⊕に、バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して、3アンペア程度で8〜10時間行ってください。

取扱いの注意

- **急速充電は避けてください。**
- **取付時は、ターミナル接触部の油分などを布でふき取ってください。また、取付後は、ターミナル部にグリスを塗布しておいてください。**
- **バッテリの⊕ターミナルのゴムブーツは、必ず取り付けてください。**

バッテリの手入れのしかた

バッテリ端子が腐食していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で清掃し、グリスを塗布してください。

バッテリの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置しておくと、バッテリは自然放電します。使用しないときでも、ときどき充電量を点検し、必要に応じて充電してください。

20.ヒューズの点検・交換のしかた

ヒュージブルリンクとヒューズは、配線回路（通常通電している回路）へ過大電流が流れたときに、溶断して回路をしゃ断します。
ヒューズが切れると、電装関係が作動しなくなり、バッテリにも充電されなくなりますので、ヒューズが切れた場合は、下記の手順で交換してください。

〈交換のしかた〉

❶ボンネットを開いてください。
❷ヒューズボックスのふたを外して、切れたヒューズを点検してください。
❸切れていれば、切れたヒューズと同容量のヒューズと交換してください。



〈ヒュージブルリンク〉

部品コードNo.：91580000110



ヒュージブルリンクは、バッテリー⊕コードの基部にあります。ドライバーシート下のビニールシートを開いて、ヒュージブルリンクを点検してください。ヒュージブルリンクは、テスターで断線を確認してください。（指でつまんで軽く引っ張り、被覆が伸びるときは切れています。）
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店またはJAで点検を受けてください。

取扱いの注意

- **ヒューズを交換するときは、必ず同容量のものを使用してください。故障の原因になります。**

21.パイプ類の点検について

⚠危険

- **燃料パイプが破損していると、燃料もれを起こしますので必ず点検してください。守らないと、火災の原因になります。**

燃料パイプが傷んで燃料もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくても2年ごとに交換してください。

22.電気配線の点検について

⚠警告

- **配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。**
- **バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災を起こすおそれがあります。**

ボンネットを開け、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、販売店などで修理してください。
傷んでいなくても使用時間50時間ごと、または1年ごとに定期点検を受けてください。

23.クローラの調節のしかた

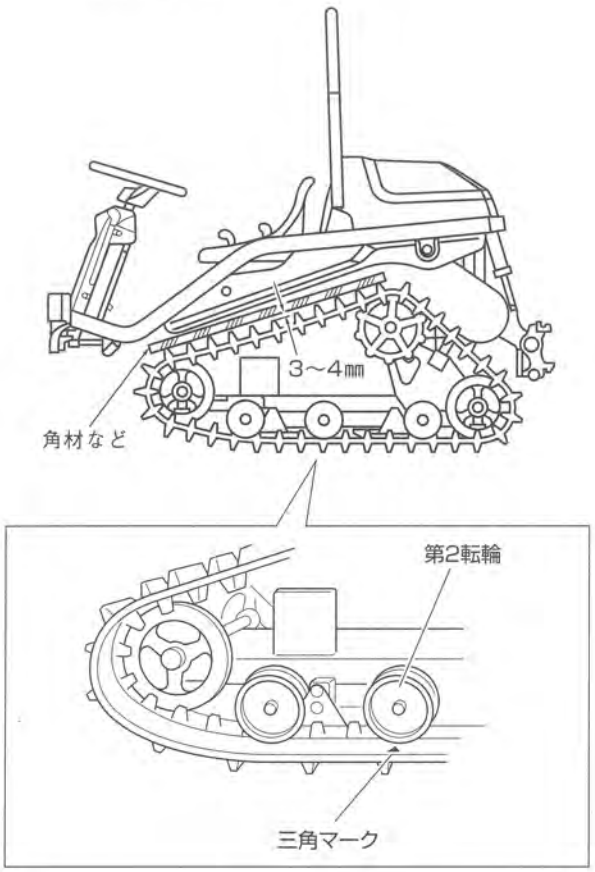
クローラの点検・調節は、地面が平坦な場所で行ってください。

〈点検のしかた〉

❶本機を、「1」速でクローラを2回転ほど前進させ、クローラの三角マークを第2転輪へ合わせてください。

❷角材など、まっすぐな物をクローラ上部へ渡して置いてください。

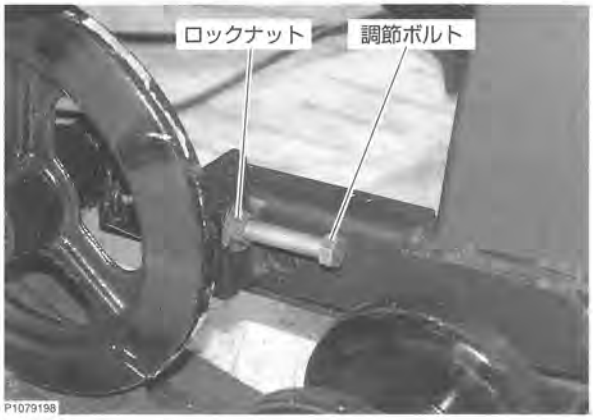
❸クローラ上部中央のたるみが3～4mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

❶ロックナットをゆるめて、調節ボルトを締め込みながら調節してください。

❷ロックナットで固定してください。



24.排気ガスの色について

エンジンの始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色……エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色・白色の排気ガスがエンジンに負荷をかけなくてもでるときは、販売店、またはJAで整備してください。

12章 不調診断のしかた

⚠警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。止めないと回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの販売店へ連絡してください。

1. メインスイッチを「始動」位置にしても、スタータが回らない。

この確認をしてください	処　置	参照ページ
ブレーキペダルを踏み込んでいますか。	ブレーキペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「始動」に回してください。	42
バッテリ液は規定量入っていますか。または放電していませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電してください。	88
バッテリ端子部のゆるみや外れ、腐蝕はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。	88・89
ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。	89
ヒュージブルリンクが溶断していませんか。	新しいヒュージブルリンクと交換してください。	90
メインスイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。	—
セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。	—

2. メインスイッチを「始動」位置にすると、スタータは回るが、エンジンが始動しない。

この確認をしてください	処　置	参照ページ
燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油してください。	77・78
燃料コックが「閉」位置になっていませんか。	燃料コックを「開」位置にしてください。	41
アクセルレバーが「停止」位置になっていませんか。	アクセルレバーを「はやい」位置にしてください。	42

3. エンジンが不規則に回転する。

この確認をしてください	処　置	参照ページ
燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい燃料と交換してください。	80
燃料フィルタやキャブレターが目詰まりしていませんか。	洗浄、または交換してください。	80

4. エンジンが過熱する。（オーバーヒート）

この確認をしてください	処　置	参照ページ
エンジンオイルが不足していませんか。	エンジンオイルを規定量まで補給してください。	78・79
過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。	—

5. エンジンの力がでない。

この確認をしてください	処　置	参照ページ
エアクリーナーが目詰まりしていませんか。	エアクリーナーを点検してください。	82

6. ブレーキの効きが悪い。

この確認をしてください	処　置	参照ページ
ブレーキペダルの遊び量は適性ですか。	ブレーキペダルの遊び量を調整してください。	83

7. ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く。

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。	—
各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップをしてください。	76・77

8. 前後進時ベルトがすべる。

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ベルトのすき間が15mm以上ありますか。	すき間が少なかったり、傷や摩耗が大きい場合はベルトを交換してください。	83・84
ベルトの傷や摩耗がありませんか。		

9. 作業機上下レバーを「上げ」位置にしても、作業機が上昇しない。

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。	79
サクションホースからエアの吸い込みがありませんか。	フィルタ取付部やサクションホースを増し締めし、ホースに亀裂が発生していたり、Oリングが破裂していれば交換してください。	81
サクションフィルタが目詰まりしていませんか。	清掃または交換してください。	81
油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	—
コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。またはOリングが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。	—
シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。	—

10.作業機上下レバーを「下げ」位置にしても、作業機が下降しない。

⚠警告

- 作業機上下レバーを「下げ」位置にしたままで、作業機に近づかないでください。突然作業機が落下して傷害事故の原因になります。

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
油圧ロックレバーが「ロック」位置になっていませんか。	油圧ロックレバーを「解除」位置にしてください。	44
コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。	サービス工場で修理してください。	—
シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。	—
オートワイヤーの調節は適正ですか。	オートワイヤーの調節をしてください。	85

11. ライトが点灯しない。

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	—
ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	89・90
ソケットから配線が外れていませんか。	点検・セットしてください。	—
接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。	—

2.標準付属品

No.	品　　名	個　数				備　　考
		JACなし	JACあり	JACなし	JACあり	
		MRT-10D	MRT-10D	MRT-10D ＋ MAR120	MRT-10D ＋ MAR120	
1	取扱説明書	1	1	1	1	
2	確認カード　4P	1	1	1	1	保証書と兼用で取扱説明書に貼付
3	工具袋	1	1	1	1	
4	メガネレンチ　14×17	1	1	1	1	
5	スパナ　10×12	1	1	1	1	
6	フロントウエイトブラケット	1	1	1	1	
7	ピン　14×260	1	1	1	1	フロントウエイトブラケット取付用
8	座金（ミガキ　14	2	2	2	2	フロントウエイトブラケット取付用
9	スナップピンJASO　14	2	2	2	2	フロントウエイトブラケット取付用
10	ボルト(バネ　10×30	4	4	4	4	フロントウエイトブラケット取付用
11	PTOカバー　PL仕組	—	—	1	1	メイバン(PTOカバー付)
12	ボルト（ヒラ+バネ　6×12	—	—	2	2	PTOカバー取付用
13	PTO変速ケース仕組	1	—	—	—	JACなし仕様
14	ツマミツキボルト　8	1	—	—	—	JACなし仕様
15	PTO変速ケース仕組（JAC	—	1	—	—	JAC付仕様
16	ハンドルツキボルト　10	—	2	—	—	JAC付仕様
17	座金（ダイマル　10	—	2	—	—	JAC付仕様
18	バネザガネ　10	—	2	—	—	JAC付仕様

3.用語集

あ　行

アタッチメント

乗用耕うん機に後付けする部品。

か　行

耕深

耕うんする深さ。

クローラ中心距離

左右のクローラのスプロケット中心間距離。

さ　行

ジェネレータ

エンジンからの動力で電気を発生させる装置。

軸距

前・後タイヤの中心間距離。

JACマチック

ロータリーをはじめ、作業機を水平および任意の角度に制御する構造。

スピンターン

左右のクローラが、たがいに逆転した状態で旋回すること。

た　行

ダッシング

回転するロータリーなどの反動で機械が飛び出すこと。

は　行

PTO（パワー　テイク　オフ）

作業機の動力を取り出すための軸。

PAC

尾輪を使わずにリヤカバーセンサーで耕深を一定に保つ装置。

や　行

揚力

乗用耕うん機が作業機を上昇させるための力。

ら　行

リヤヒッチ

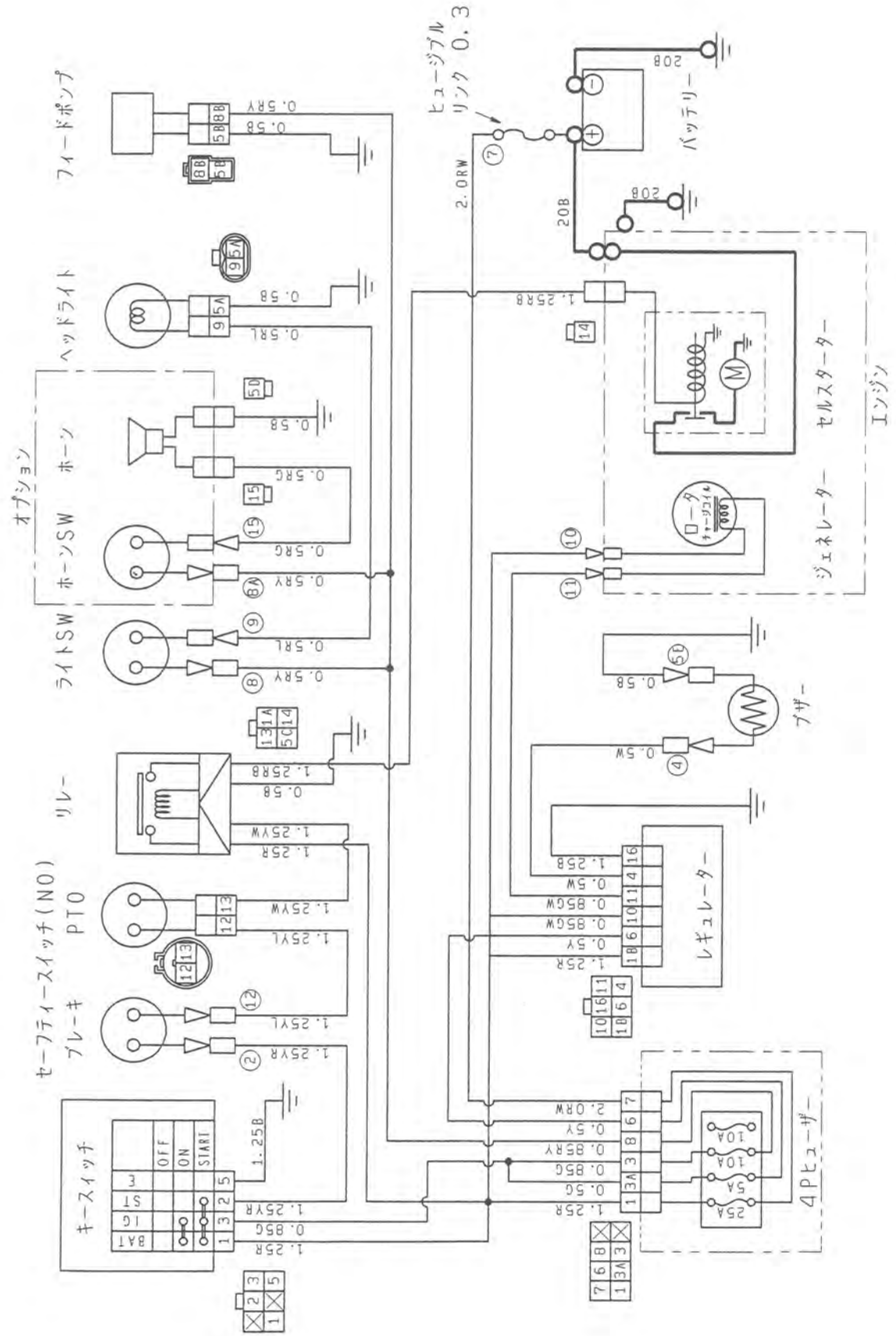
作業機を取り付けるためのヒッチ。

リリーフ弁

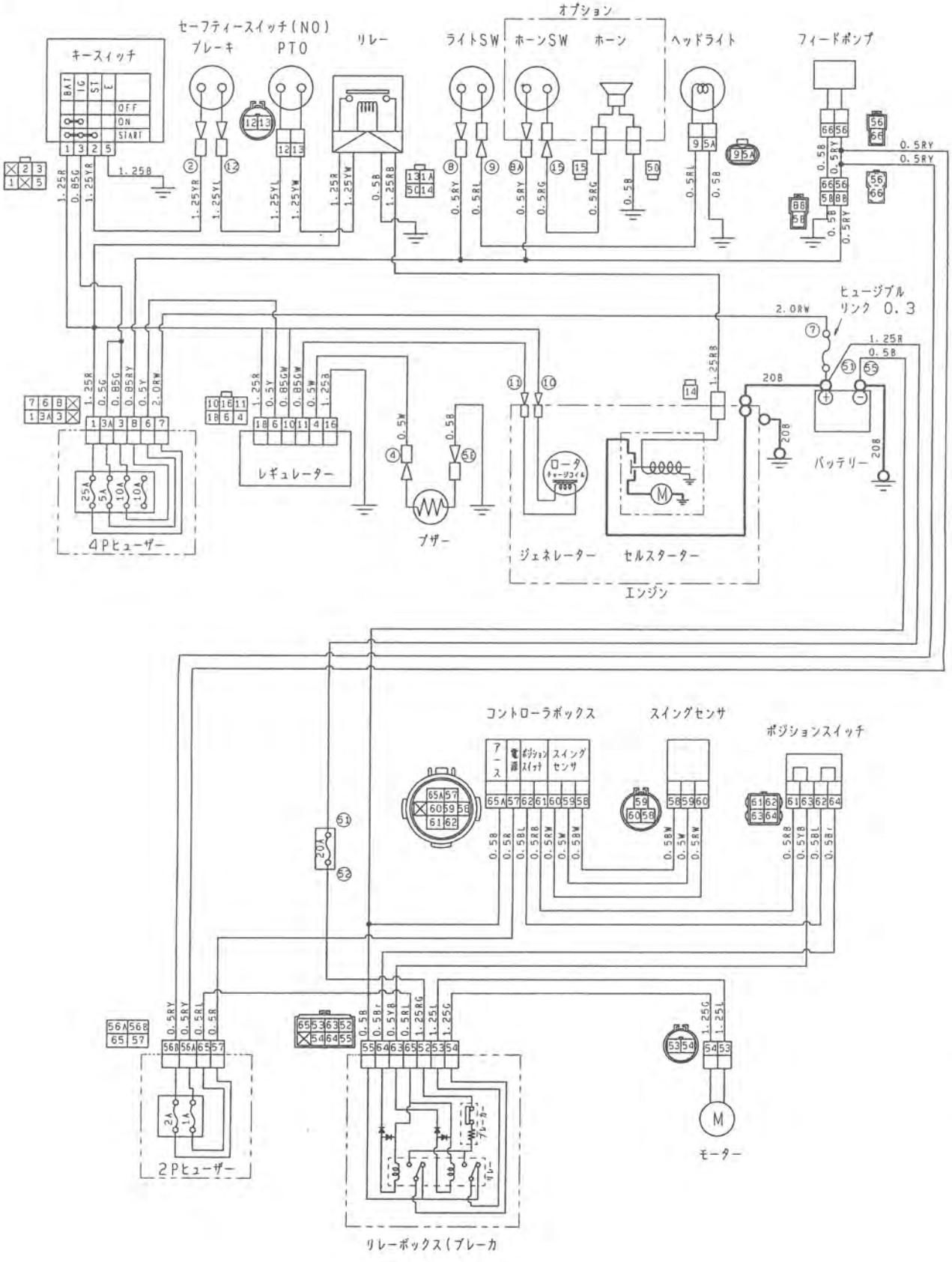
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁。

4.配線図

標準仕様


フィードポンプ
ヘッドライト
オプション
ホーンSW
ホーン
ライトSW
リレー
セーフティースイッチ(NO)
PTO
ブレーキ
キースイッチ
ヒューズブル
リンク 0.3
バッテリー
セルスターター
エンジン
ジェネレーター
ブザー
レギュレーター
4Pヒューザー
OFF
ON
START
BAT
IG
ST
ACC

JAC仕様


オプション
セーフティースイッチ(NO)
ブレーキ
PTO
リレー
ライトSW
ホーンSW
ホーン
ヘッドライト
フィードポンプ
キースイッチ
BAT
IG
ST
E
OFF
ON
START
ヒュージブル
リンク 0.3
バッテリー
レギュレーター
ブザー
ジェネレーター
セルスターター
エンジン
4Pヒューザー
コントローラボックス
スイングセンサ
ポジションスイッチ
2Pヒューザー
リレーボックス(ブレーカ
モーター